

7. 食品添加物リスク評価方法レビュー

902 リスク評価方法レビュー

リスク評価方法レビュー抄録

902_rs_0001

レコードNo 1987:419980 JSTPLUS
 整理No 88A0050470
 和文標題 化学物質の発がん性および突然変異誘発性の評価 WHO科学者グループ報告書
 原文標題
 著者名 (World Health Organization, Geneva, CHE)
 資料名 化学物質の発がん性および突然変異誘発性の評価 WHO科学者グループ報告書 昭和 55年
 JST資料番号:N19873103;
 PAGE:27P, (1980)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 1973年 8月13日から17日までジュネーブで開かれた会議の報告。食品添加物と残留農薬問題の専門家に課せられた任務は食品添加物、残留農薬および健康と食糧供給の観点から重要な各種汚染物質の毒性を検討し、1日の許容量を設定することであった。評価の結論として、1)生体外の突然変異性試験だけではヒトの場合に適用できる明確な結論を出すことはできない、2)発がん突然変異との関係を解明するには今後さらに研究を推進しなければならない、3)発がん化学物質の直接作用によらずに、発がんとは直接関係のないその物質の初期作用によって二次的ながんが誘発される場合もあることが確認された、4)発がん物質の作用を増強したり阻止する調節因子の役割を考慮する必要があるなどと記述〔1975.6〕

JST COPYRIGHT

902_rs_0002

レコードNo 1984:292351 JSTPLUS
 整理No 84A0449685; L84220739
 和文標題 長期間、低投与量の動物実験研究からの補完 I 総説
 原文標題 Extrapolation from long term low dose animal studies - I. Review.
 著者名 CRANMER M F, (Jefferson Professional Serv., AR)
 資料名 Environ Sci Res
 JST資料番号:C0831B
 VOL: 21; , PAGE:415-441, (1981)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 種々の化学製品(医薬品、農薬、食品添加物など)の必然的使用に伴って生ずる危険を客観的にもっともよく推定する技術が重要である。がんのリスクに対する標題に関して、絶対的な安全性追求における落とし穴、価値判断とその偏り、いき値の問題、従来のモデル(Probit, Logistic, One-Hitなど)と低投与量モデル、FDA, EPA, NCTRの外そう法及び腫瘍発現に対する時間の考慮を論述し、12の外挿法モデルとそれらの数式を表に要約した。古典的な、時間を固定した用量反応曲線からの低投与量への外挿の欠点を述べ、腫瘍発現のダイナミクスに接近するための種々の方法を多くの文献を引用して論じた

JST COPYRIGHT

902_rs_0003

レコードNo 2002:337802 TOXCENTER
 和文標題 奇形学の規制状況: 食品医薬品局の役割
 原文標題 REGULATORY ASPECTS OF TERATOLOGY: ROLE OF THE FOOD AND DRUG ADMINISTRATION.
 著者名 KELSEY F O
 資料名 TERATOLOGY, (1982) 25 (2) 193-199.
 発行国
 言語 英語
 抄録 胎児の催奇形性を低減するためにアメリカ食品医薬品局(FDA)が行っている政策や計画について解説した。この中には、動物の生殖試験や子供を産む可能性のある女性に関する臨床試験のガイドライン、胎児にとって危険な製品を知らせるための表示、市販製品の有害性を検証するための調査方法、発生毒性学をよく理解し、胎児致死性又は胎児毒性作用を検査する手法向上のための研究活動、専門家と一般の人々両方に直接FDA規制製品の胎児への危険性を指導することが含まれる。

902_rs_0004

レコードNo 1983:245212 JSTPLUS
 整理No 83A0401937; C83302758, K83111591, L83203022
 和文標題 食品の直接添加物と色素の安全性評価のための毒性について
 原文標題 Toxicological principles for the safety assessment of direct foodadditives and color additives used in food.
 著者名 (U.S. Food and Drug Administration, Washington, DC)
 資料名 PB Rep
 JST資料番号:P0999A;
 PAGE:251P, (1982)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 標題の添加物の安全性評価に関する FDAによる科学的基準を基礎にした以下の項目によるガイダンス。食品と添加物の変化, 規制の必要性和問題点 ;安全評価基準 (添加物の安全濃度決定); 毒性テスト (短期から長期の経口毒性, 発がん性と毒性との関連, 生殖に関する研究, 催奇性と発がん性のテスト, 化合物の吸収, 分布, 代謝と排出)

JST COPYRIGHT

902_rs_0005

レコードNo 1984:215180 JSTPLUS
整理No 84A0365045; C84263305, K84091391, L84183682
和文標題 発がん物質の認定のための規制手法としての方法の感度
原文標題 The sensitivity of method procedure as a regulatory mechanism for approval of carcinogens.
著者名 FARBER T M, (Food and Drug Administration, Washington, DC)
資料名 Environ Sci Res
JST資料番号:C0831B
VOL: 25; , PAGE:589-594, (1982)
発行国 United States (US)
言語 英語
抄録 米国食糧薬品局 (FDA)の発がん物質の規制について解説。発がん物質認定のための新しい評価法は、'79年連邦政府官報で発表された「方法の感度」(SOM)の前文に記されている。SOMは食用となる動物に使用される薬剤に適用され、「薬剤が含まれない」ということの操作上の定義を明確にした。このSOMによる、6段階の評価手順を解説した

JST COPYRIGHT

902_rs_0006

レコードNo 1983:119816 JSTPLUS
整理No 83A0261310; J83072064, K83072041, L83133875
和文標題 食品添加物の指定と削除 特に発がん性の評価について
原文標題
著者名 谷村 顕雄, (衛試食品添加物部)
資料名 New Food Ind
JST資料番号:F0354A; , ISSN:0547-0277
VOL: 25 , NO: 6, PAGE:1-5, (1983/06)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 食品添加物としての指定申請に必要な資料、特に発がん試験を含めた慢性毒性試験について解説。そして発がん性のため使用が禁止された食品添加物と、ワラビ、フキノトウなど発がん性の知られている食品の摂取量などを比較検討。また、サッカリンの発がん性と砂糖の危険性を考察し、利益とリスクの比較が添加物利用に重要であることを指摘

JST COPYRIGHT

902_rs_0007

レコードNo 1983:159071 JSTPLUS
整理No 83A0306257; J83081990, K83081664, L83153460
和文標題 食品中の有害物質の危険度評価
原文標題
著者名 内山 充
資料名 食品衛生学雑誌
JST資料番号: G0622A; , ISSN: 0015-6426; , CODEN: SKEZAP
VOL: 24 , NO: 3, PAGE: 249-257, (1983/06)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 危険度評価は広義の安全性評価の一部であり,近年新しい環境汚染物質および発がん物質の存在が証明されたことから,従来の可逆毒性によるADI(一日許容摂取量)からの安全性の評価とは別に,不可逆毒性によるVSD(実質的安全量, virtually safe dose)が用いられるようになった。これは低濃度への外挿を各種数理モデルより行うもので, サッカリン, DDT, ニトロソアミンなどの発がんリスクを評価している

JST COPYRIGHT

902_rs_0008

レコードNo 1985(02):C0041 FSTA
和文標題 ヒトに対する化合物の発がん性危険評価におけるIARCモノグラフプログラム
原文標題 Evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Some food additives, feed additives and naturally occurring substances.
著者名
資料名 IARC Monographs, (1983), 31, pp11-32. ISBN 92-832-1531-1 (hard cover); ISBN 92-832-1231-2 (soft cover), many ref.
発行国
言語 英語
抄録 標題のプログラムは, ヒトに対する化合物の発がん性評価に関係する国際的評価基準の一つである。1971年に設定されて以来, IARC専門委員会単独およびWHOとの数回会議(1972 ~ 1983)が開かれ, 見直されてきている。その歴史的歩みと, その評価の見直し点について概説した。

902_rs_0009

レコードNo 1983:64693 JSTPLUS
整理No 83A0192763; C83143116, K83052108, L83103928
和文標題 食品添加物の安全性評価
原文標題 Evaluating the safety of food additives.
著者名 KIRSCHMAN J C, (General Foods Corp., NY)
資料名 Food Technol
JST資料番号: C0006A; , ISSN: 0015-6639; , CODEN: FOTEAI
VOL: 37 , NO: 3, PAGE: 75-76, 78-79, (1983/03)
発行国 United States (US)
言語 英語
抄録 食品添加物の安全性評価法を , 特に発がん性評価の見地から解説。すなわち , 近年になって各種毒性テスト方法は著しく進歩したが , テスト方法の変化 , たとえば動物実験の必要期間の延長 , 供試個体や個体当りのサンプリングすべき組織数の増加などを紹介。また , 近年提案されている安全性試験の新しいアプローチ法として , 食品安全性審議会法 , EPA法 , FDA法などを説明

JST COPYRIGHT

902_rs_0010

レコードNo 1985:47862 TOXCENTER
整理No 85A0022566; C85023341
和文標題 法規制のデシジョンメイキングにおけるリスク評価法の利用
原文標題 USE OF RISK ASSESSMENT IN REGULATORY DECISION-MAKING
著者名 SMITH M V [Reprint author]
資料名 Food Technology, (1984) Vol. 38, No. 10, pp. 113-118. CODEN: FOTEAO. ISSN: 0015-6639.
発行国
言語 英語
抄録 食品中の発がん性物質に対する, FDAの法規制の政策に影響を与える要因として, 毒性測定の不確実性やDelaney条項をあげて説明するとともに, FDAのリスク評価法採用のメリットを解説。また, 毒物を摂取したときの影響を予想するためのリスク評価法, 食肉中へ混入する発がん性薬品の検出でのリスク評価法の適用についても言及

JST COPYRIGHT

902_rs_0011

レコードNo 1984:71158 JSTPLUS
整理No 84A0197905; L84103786
和文標題 生殖性の危険評価及び監視の骨組
原文標題 A framework for reproductive risk assessment and surveillance.
著者名 OMENN G S, (Univ. Washington)
資料名 Teratogenesis Carcinog Mutagen
JST資料番号:E0970A; , ISSN:0270-3211
VOL: 4 , NO: 1, PAGE:1-14, (1984)
発行国 United States (US)
言語 英語
抄録 生殖器に与える環境汚染物質 ,食品添加物 ,医薬品等の危険性評価に対する米国政府機関 (環境保護庁 ,食品医薬品庁)の考え方の講演記録。その骨子は毒物の確認 (疫学 ,動物試験 ,in vitroスクリーニング) ,性状の明確化 ,法的規制など。また将来の方向についても議論

JST COPYRIGHT

902_rs_0012

レコードNo 1984:178358 JSTPLUS
整理No 84A0323911; C84233290
和文標題 リスク評価の利用と安全性評価
原文標題 Use of risk assessment and safety evaluation.
著者名 WODICKA V O
資料名 ACS Symp Ser (Am Chem Soc)
JST資料番号:H0588B; , ISSN:0097-6156
NO: 239, PAGE:131-145, (1984)
発行国 United States (US)
言語 英語
抄録 米国の食品安全性評議会において ,食品中の化学物質の安全性を評価する際に採用されている方法及びその問題点について紹介した。方法の概略は以下の通り :被験物質の選定及びヒトの暴露パターンの推定 ;急性毒性試験 ;変異原性試験及び代謝 ,薬物動力学の解明 (変異原性なし ,代謝物も安全と認められればこの段階で終了);亜慢性毒性試験 (催奇形性及び生殖への影響の試験を含む);必要な場合のみ慢性毒性試験を実施。以上の試験で得た用量反応曲線を微量側へ外挿し ,安全係数を加味して ,ヒトでの安全量を設定した

JST COPYRIGHT

902_rs_0013

レコードNo 1985:39577 TOXCENTER
和文標題 発がん性とリスク評価
原文標題 Carcinogenic potency and risk assessment
著者名 Squire R A
資料名 Food additives and contaminants, (1984 Apr-Jun) 1 (2) 221-31. Journal Code: 8500474. ISSN: 0265-203X.
発行国 ENGLAND: United Kingdom
言語 英語
抄録 発がんリスク評価について概説した。ヒトに対する発がん性の証明(発がんのメカニズム、生殖毒性および実験動物データ)について論じた。発がん性に関する3種類の証明法を挙げ、次にリスク評価のアプローチ(ゼロリスク、安全因子、数学モデル)について詳説した。動物の腫瘍データの数学的外挿を当てにするよりリスク評価に適切なデータを含めることが重要であると述べた。

902_rs_0014

レコードNo 1984:38479 TOXCENTER
和文標題 リスク評価及び経営戦略決定の試行における数学モデルの役割
原文標題 Role of mathematical models in assessment of risk and in attempts to define management strategy
著者名 Flamm W G; Winbush J S
資料名 Fundamental and applied toxicology : official journal of the Society of Toxicology, (1984 Jun) 4 (3 Pt 2) S395-401. Journal Code: 8200838. ISSN: 0272-0590.
発行国 United States
言語 英語
抄録 FDAが行っている食品由来の発がん物質のリスク評価を解説した。評価するのは実際のリスクではなく、リスクの上限である。リスク評価の過程には数多くの段階と推定があり、それらは評価数値に影響する。適用される数学モデルはその数値に影響する1つの因子にすぎない。リスクの上限を決める場合に「最も考えにくいケース」を使って政策目的を果たすためには、推定と決定との適度なバランス感覚が必要である。数学モデルを選択する場合には、リスク評価者とリスク管理者の相互干渉は避けたほうがよい。科学的判断と政策的判断を混同する危険性がある。リスク評価者はリスク評価到達に関与する不確実性のポイントと範囲を完全に把握しておく必要がある。

902_rs_0015

レコードNo 1986(04):T0053 FSTA
 和文標題 Delaney条項 はデ・ミニミスに宍ずる
 原文標題 Delaney meets 'de minimis'.
 著者名 Middlekauf, R. D.
 資料名 Food Technology, (1985), 39 (11) 62, 64-69, 33 ref.
 発行国
 言語 英語
 抄録 食品中の発がん性物質がリスク評価法により健康に対して有意なリスクを持たないことが示されたなら、その物質を許容すべくDelaney条項を修正すべきである。Delaney条項に対する最近の解釈の変化を科学的な進歩と照らし合わせて以下の項目で説明した。1) 法定要求事項、2) 科学的な見地、3) FDAおよびDelaney条項、4) レビュー、5) デ・ミニミスの保護と支持。

902_rs_0016

レコードNo 1985:58564 JSTPLUS
 整理No 85A0193103; J85052319, L85091247
 和文標題 天然添加物の急性毒性および各種変異原性試験成績の概要
 原文標題 Results of tests on acute toxicities and mutagenicities of natural foodadditives.
 著者名 はち谷紀文, 滝沢行雄, (秋田大医) 河村太郎, 館野周之, (横浜市衛研) 坂部美雄, 麻野間正晴, (名古屋市衛研) 野田正男, 石崎むつ雄, (茨城県衛研) 黒田孝一, (大阪市環境科研)
 資料名 トキシコロジーフォーラム
 JST資料番号:Y0089A; , ISSN:0287-8712
 VOL: 8 , NO: 1, PAGE:93-107, (1985/01)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 わが国で使用されている天然添加物 96種 101品目について急性毒性試験とレックアッセイ (I) Ames試験 (II) マウス骨髄小核試験 (III) の変異原性試験を実施した結果 Iでは 96品目中 32品目, IIでは 95品目中 26品目に変異原性が認められ IIIでは 9品目中カカオ色素に低いながら小核赤血球頻度の増加を認めた

JST COPYRIGHT

902_rs_0017

レコードNo 1987:78206 TOXCENTER
 和文標題 リスク評価の数理モデル 毒性学者の見解
 原文標題 MATHEMATICAL MODELS IN RISK ASSESSMENT A TOXICOLOGIST'S VIEW
 著者名 PURCHASE I F H [Reprint author]
 資料名 Human Toxicology, (1986) Vol. 5, No. 6, pp. 398. Meeting Info.: BRITISH TOXICOLOGY SOCIETY MEETING, YORK, ENGLAND, UK, SEPTEMBER 11-12, 1986. HUM TOXICOL CODEN: HUTODJ. ISSN: 0144-5952.

発行国
 言語 英語
 抄録 化学物質(食品添加物や農薬を含む)の発がん性リスク評価に関して、化学物質の非発がん性終点値は、通常的に投与物質の無毒性量(NOEL)の100倍低い設定値を設定している。発がん性可能物質のその設定値は、遺伝子DNA値とも関連し、実験値あるいは推定値からの決定は通常困難である。変異原性(悪性腫瘍発生を含む)を有する化学物質の発がん性リスク評価数値の扱いについて毒性学者の立場から概説した。

902_rs_0018

レコードNo 1986:36094 JSTPLUS
 整理No 86A0183108; C86123175
 和文標題 食品中の化学的添加物 添加物規制の法的措置並びにそれらの使用における安全性評価方法
 原文標題 Chemical additives in food - A review of the regulatory processes governing their control and the procedures for evaluating their safety in use.
 著者名 WONNACOTT J E, JUKES D J, (Univ. Reading, Great Britain)
 資料名 Food Chem
 JST資料番号:H0766A; , ISSN:0308-8146
 VOL: 19 , NO: 1, PAGE: 11-48, (1986)

発行国 United Kingdom (GB)
 言語 英語
 抄録 食品諮問委員会の役割, 国際的な統制手段, 公的安全評価計画, 安全評価計画に対する批判, 食品添加物の発がん性, 突然変異誘発性などを含む毒性試験における新しい進展, 毒性試験のための指導目標, 食品添加物の使用による健康阻害並びに有益性などについて詳述

JST COPYRIGHT

902_rs_0019

レコードNo 1986:295921 JSTPLUS
 整理No 86A0487202; L86213659
 和文標題 低用量外挿のためのモデルの使用
 原文標題 Use of models in low-dose extrapolation.
 著者名 VAN RYZIN J, (Columbia Univ., New York)
 資料名 Basic Life Sci
 JST資料番号: B0289B
 VOL: 38; , PAGE: 537-542, (1986)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 発がん物質の低用量のリスクを定量するために3種の発がん物質, DDT, 塩化ビニル及びサッカリンについて, 投与量とマウスまたはラットでの発がん率の関係を調べ, その低用量での投与の際の発がんリスクを数学的モデルを用いて外挿して求めた。バイオアッセイと対比はできないが, 制限基準作成に有用と考察

JST COPYRIGHT

902_rs_0020

レコードNo 1987:201432 JSTPLUS
 整理No 87A0378916; L87242934
 和文標題 過剰用量毒性試験対いき値 生物学の要素を危険性評価に取入れるべきである
 原文標題 Overdose toxicity studies versus threshold : Elements of biology must be incorporated into risk assessment.
 著者名 HILDEBRANDT A G, (Bundesgesundheitsamtes, Berlin, DEU)
 資料名 Arch Toxicol
 JST資料番号: D0867A; , ISSN: 0340-5761; , CODEN: ATXKA8
 VOL: 60 , NO: 1/3, PAGE: 217-223, (1987/05)
 発行国 Germany, Federal Republic of (DE)
 言語 英語
 抄録 エリスロシン, 2,4,5-トリクロロフェノキシ酢酸, 2,3,7,8-テトラクロロジベンゾ-p-ジオキシン, 各種抗酸化剤を例に現在の過剰用量での毒性試験について触れ, 作用機序, 薬物動力学, いき値との関係, 前発がん活性および抗がん活性といき値について解説

JST COPYRIGHT

902_rs_0021

レコードNo 1988:54869 TOXCENTER
和文標題 動物の選択と外挿における国際的配景
原文標題 INTERNATIONAL PERSPECTIVES ON ANIMAL SELECTION AND EXTRAPOLATION
著者名 MUNRO I C [Reprint author]
資料名 (1987) pp. 23-30. ROLOFF, M. V. (ED.). HUMAN RISK ASSESSMENT: THE ROLE OF ANIMAL SELECTION AND EXTRAPOLATION; SYMPOSIUM, ST. LOUIS, MISSOURI, USA, OCTOBER 28-31, 1985. XVI+281P. TAYLOR AND FRANCIS: LONDON, ENGLAND, UK; PHILADELPHIA, PENNSYLVANIA, USA. ILLUS. ISBN: 0-85066-368-7.
発行国
言語 英語
抄録 食品添加物や農薬用化合物の安全性(毒性、発がん性)の評価・検査には動物による評価・検査段階が必ず必要となるが、その試験(評価・検査)動物がヒトへの挿入の対比でポイントとなり、本報告において動物の選択、試験方法等、見直しの意味を含めて概説した。ヒトと動物の差を念頭においた、DNA結合性、薬物動態や代謝性等を問題とし説明した。将来のあり方についても触れた。

902_rs_0022

レコードNo 1987:135062 TOXCENTER
和文標題 NCI/NTP試験および食品添加剤に基づく発がん性の構造活性予測モデル
原文標題 A structure-activity prediction model of carcinogenicity based on NCI/NTP assays and food additives
著者名 Enslein, Kurt; Borgstedt, Harold H.; Tomb, Michael E.; Blake, Benjamin W.; Hart, Jeffrey B.
資料名 Toxicology and Industrial Health, (1987) Vol. 3, No. 1, pp. 267-87. CODEN: TIHEEC. ISSN: 0748-2337.
発行国 UNITED STATES
言語 英語
抄録 発がん性の構造活性相関(SAR)に関する最新モデルについて検討した。SARのための性状パラメータとして、オクタノール-水分配係数、分子屈折率、分子連結指数(MCIs)、下部構造的鍵(環状、縮合環、脂肪族などの官能基)、その他のパラメータなど、種々のパラメータを検討した。発がん性、非発がん性化合物の二つのグループのデータについて判別分析によりモデルを開発した。343化合物(そのうち114は陽性、229は陰性)の不揃いなデータセットに基づくモデルおよび63の芳香族アミン(そのうち43は発がん性、20は非発がん性)に基づくモデルの二つのモデルを記述した。モデルのデータベースはNCI/NTP発がん性バイオアッセイの報告および食品添加剤のリストから集めた。不均一化合物モデルを用いてメチルオレンジの例を掲げた。

902_rs_0023

レコードNo 1988:24835 JSTPLUS
 整理No 88A0163338; J88042487, K88042099, L88112936
 和文標題 化学物質の遺伝毒性に関する安全性評価のための各種短期試験による研究
 原文標題 Evaluation of chemical genotoxicity by a series of short-term tests.
 著者名 蜂谷紀文, (秋田大 医)
 資料名 秋田医学
 JST資料番号: Y0046A; , ISSN: 0386-6106
 VOL: 14, NO: 2, PAGE: 269-292, (1987/12)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 化学物質の遺伝毒性について検討した。まず変異原性試験として、プラスチック添加剤 64品目について、細菌復帰変異試験とマウス骨髄小核試験を、また食品用天然添加物 16品目について、マウス骨髄小核試験を行った。次に発がん性物質としてエチレンジプロミドとアクリロニトリルを用いて、アルカリ溶出法によるマウス組織中の DNA 損傷を検出した。更にN-エチル-N-ニトロソ尿素投与後のマウス各種組織における DNA 損傷の形成と修復を検討した

JST COPYRIGHT

902_rs_0024

レコードNo 1987:460012 JSTPLUS
 整理No 88A0096111; J88022403, K88022131, L88072847
 和文標題 天然食品添加物の変異原性および急性毒性 I
 原文標題 Mutagenicity and acute toxicity of natural food additives. (1).
 著者名 黒田孝一, 野田勉, 清水充, 森田茂, 山田明男, (大阪市環境科研)
 資料名 大阪市立環境科学研究所報告 調査・研究年報
 JST資料番号: F0957A; , ISSN: 0285-5801
 NO: 49(1986), PAGE: 33-38, (1987/11/30)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 16品目について調査。結果, 1)急性毒性(ラット, 経口, 14日後): LD50値が求められたのはくん液だけ。2)レックアッセイ: くん液だけ陽性。3)Amesテスト: 陽性はくん液とコチニール色素。4)LD50が投与限界以上かつ, 2), 3)が陰性の品目は, うこん, カラメル, クチナシ青, コウリヤン, シーナット, バブリカ, 紅こうじ等色素類と, シェラック, カラギーナン, 結晶セルロース, タマリンド種子多糖体, ローカストビーンガム, バニラ抽出物

JST COPYRIGHT

902_rs_0025

レコードNo 1987:46262 TOXCENTER
 和文標題 発がん物質および変異誘発物質のためのin vitro試験
 原文標題 In vitro testing for carcinogens and mutagens
 著者名 Santella R M
 資料名 Occupational medicine (Philadelphia, Pa.), (1987 Jan-Mar) 2 (1) 39-46. Ref: 27. Journal Code: 8605629. ISSN: 0885-114X.
 発行国 United States
 言語 英語
 抄録 農薬、食品添加剤、医薬品を含む化学物質の発がん性および変異原性のために多くのin vitro試験が開発されてきた。動物発がん性バイオアッセイ、in vitro試験、微生物突然変異試験、ほ乳類突然変異試験、不定期DNA合成、細胞形質転換試験および細胞遺伝試験について解説した。食品添加剤のようなヒトに高い暴露となる化学物質は、一つの限られたヒト暴露試験よりもより多くの試験で検討されるべきであろう。化合物を安全であり、リスクがないと証明することは難しい。しかし、短期試験は多くの化合物の遺伝毒性の可能性についてかなりの情報をすばやく得る手段となる。

902_rs_0026

レコードNo 1989:464732 JSTPLUS
 整理No 90A0061722; L90103001
 和文標題 日常食品成分の発がんプロモーター作用の研究
 原文標題 A study on carcinogen promoter actions in everyday food ingredients.
 著者名 高橋道人, (衛試)
 資料名 厚生省がん研究助成金による研究報告集
 JST資料番号: Y0184A
 VOL: 1986; , PAGE: 573-576, (1987/08)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 諸臓器の2段階発がんモデルを用いてプロモーター作用を検索した。食道発がんでは食塩及びエタノールが、胃発がんでは食塩及びグリオキサールが、すい臓がんではカフェインがプロモーター作用を示した。肝臓がんではデオキシコロール酸はプロモーター作用を示したが、オイゲノール、カフェー酸などは抑制作用を示した。腎臓がんではエチニルエストラジオールとニコチンアミドは促進傾向を、ジエチレングリコールは抑制傾向を示した

JST COPYRIGHT

902_rs_0027

レコードNo 1989:464744 JSTPLUS
整理No 90A0061734; L90103003
和文標題 長期動物試験による環境化学物質の発がん性評価に関する研究
原文標題 A study on the carcinogenic evaluation of environmental chemicalsubstances with long-term animal tests.
著者名 林裕造, (衛試)
資料名 厚生省がん研究助成金による研究報告集
JST資料番号: Y0184A
VOL: 1986; , PAGE:631-635, (1987/08)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 社会的及び科学的重要度の高い化学物質 56を対象に, 国際的に容認された試験法に基づいて, 発がん性について検討した。フェナセチン(腎がん, ぼうこうがん), プセチン(腎がん), BHA(ラット前胃へん平上皮がん)などを認めた。発がん性試験結果の評価法, 動物腫瘍の病理組織診断, 腫瘍登録などについて検討した

JST COPYRIGHT

902_rs_0028

レコードNo 1987:436042 JSTPLUS
整理No 88A0070080; K88021961, L88052733
和文標題 低用量外挿法のための in vivoでの DNA結合の定量的評価
原文標題 Quantitative evaluation of DNA-binding data in vivo for low-doseextrapolations.
著者名 LUTZ W K, (Inst. Toxicology, ETH Zurich and Univ. Zurich, Schwerzenbach, CHE)
資料名 Arch Toxicol
JST資料番号: D0867A; , ISSN:0340-5761; , CODEN:ATXKA8
NO: Suppl 11, PAGE:66-74, (1987)
発行国 Germany, Federal Republic of (DE)
言語 英語
抄録 化学的発がん物質のヒトにおける腫瘍形成の危険性を低用量の領域で推定するためのDNA結合を利用する方法について, アフラトキシンB1, ホルムアルデヒド, 塩化ビニル, サッカリンなどの例で検討, 考察した

JST COPYRIGHT

902_rs_0029

レコードNo 1988:186845 JSTPLUS
整理No 88A0359684; J88082581
和文標題 天然食品添加物の経口投与による急性毒性試験
原文標題 Acute oral toxicities of natural food additives.
著者名 野田勉, 森田茂, 大垣寿美子, 清水充, 山野哲夫, 山田明男, (大阪市環境科研)
資料名 生活衛生
JST資料番号: G0567A; , ISSN: 0582-4176; , CODEN: SEEIAS
VOL: 32 , NO: 3, PAGE: 110-115, (1988/03)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 天然食品添加物 28種, 42品目のラットあるいはマウスによる急性経口毒性試験を実施した。動物の死亡が認められたのはアニスオイル, オールスパイスオイル, オレンジオイル, くん液の4品目でいずれも着香料であった。観察期間終了後の剖検で異常が認められたものはラットに投与したときのクチナシ黄色素で, 肝に変性部位が認められた

JST COPYRIGHT

902_rs_0030

レコードNo 1988:195413 JSTPLUS
整理No 88A0368317; K88082014, L88232961
和文標題 第9回 LSR安全性評価の国際シンポジウム リスクアセスメントの問題点と将来展望 (2) 遺伝毒性 変異原性試験による生活関連物質の安全性評価
原文標題 Mutagenicity tests for the primary risk assessment of chemical substances.
著者名 石館基, (衛試 安全性生物試験研セ)
資料名 トキシコロジーフォーラム
JST資料番号: Y0089A; , ISSN: 0287-8712
VOL: 11 , NO: 3, PAGE: 304-317, (1988/05)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 現在用いられている変異原性試験の種類を掲げ, 変異原性と発がん性の相互関連性について論じた。また発がん性物質のスクリーニング以外の変異原性試験の役割を紹介した。次に, 生活関連物質の安全性評価を目的とする変異原性試験について, 試験の選択方法及び試験の限界を示し, 臓器特異性を主眼としたスクリーニングなど今後の課題について述べた

JST COPYRIGHT

902_rs_0031

レコードNo 1989:413606 JSTPLUS
 整理No 89A0619659
 和文標題 特集 No45 米国 National Toxicology Programの機構について 発がん性についての病理学的評価 (日本化学物質安全・情報センター S)
 原文標題 Special issue. No. 45. The mechanism of the United States National Toxicology Program. Pathological evaluation of carcinogenicity. (Sponsor :Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology and Information Center)
 著者名 三森国敏, (残留農薬研 毒性部 第 1研究室)
 資料名 米国 National Toxicology Programの機構について 発がん性についての病理学的評価 昭和 63年
 JST資料番号:N19891876;
 PAGE:34P, (1988)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 米国 National Toxicology Program(NTP)に関して次の 8項目についての講演の収録である。1)NTP設立の背景,2)目的,3)機構,4)NTPの中心的役割を果たしている National Institute of Environmental Health Science (NIEHS)および主に発がん試験の実施に携わっている NIEHS の Toxicology Research and Testing Programの機構,5)化学物質の選択方法および指名方法,6)長期発がん試験,慢性毒性試験の実施方法,7)テクニカルレポートの作成手順,8)NTPの長期試験における病理学的評価のシステム[1988.1]

JST COPYRIGHT

902_rs_0032

レコードNo 88086846 EMBASE
 和文標題 試験方法の追加論議
 原文標題 Further debate of testing strategies.
 著者名 Tweats D.J.; Gatehouse D.G.
 資料名 Mutagenesis, (1988) 3/2 (). ISSN: 0267-8357 CODEN: MUTAEX
 発行国 United Kingdom
 言語 英語
 抄録 J.Ashby等(1986年)の提唱するin vitro毒性試験に関して、2, 4-DNT、プロカルバジン、1, 2-ジメチルヒドラジン、ウレタンの4種に絞ってCHO細胞およびCHL細胞を使用して追試した。実験結果からin vitro毒性試験の意味づけとして、既成の試験評価に参考データとしての評価を加えるべき点を示唆した。

902_rs_0033

レコードNo 1989:529133 JSTPLUS
 整理No 90A0139914; C90113373
 和文標題 食品安全性の規則
 原文標題 Regulating the safety of food.
 著者名 MIDDLEKAUFF R D, (McKenna, Conner & Cuneo, Washington, D.C.)
 資料名 Food Technol
 JST資料番号: C0006A; , ISSN: 0015-6639; , CODEN: FOTEAI
 VOL: 43 , NO: 9, PAGE: 296-300,302,304,306, (1989/09)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 米議会は FDAによる食品の安全性の検査方式から業界による自主検査方式に変更。一方、食品添加物に対するDelaney条項の適用は食品成分の安全性の評価を一層複雑化したので、FDAは危険度評価分析の適用を開始。最近有意性のない無視できる危険に対するDelaney条項除外の道を切りひらくため若干数の議案が議会に提出されている

JST COPYRIGHT

902_rs_0034

レコードNo 1989:550998 JSTPLUS
 整理No 90A0172499; K90051698, L90133079
 和文標題 発がん物質の規制決定に関する基礎的研究
 原文標題 A basic study on the establishment of regulations for carcinogens.
 著者名 林裕造, 前川昭彦, (衛試) 井内康輝, (広島大 医) 朝比奈章悟, (福島県医大) 菅野純, (東京医歯大 医) 日浅義雄, (奈良県医大) 伊藤明弘, (広島大) 津田洋幸, (名古屋市大 医) 伊藤正夫, (愛知県衛研)
 資料名 厚生省がん研究助成金による研究報告集
 JST資料番号: Y0184A
 VOL: 1988; , PAGE: 467-474, (1989/08)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 低用量リスク評価に関してウレタンの低濃度における発がん性及びフェノバルビタールのプロモーター作用の用量反応相関について検討した。赤色 3号, 赤色 105号の大量長期投与による甲状腺腫瘍の発生が, 色素に混在するヨードと水溶液中で遊離するヨードによる可能性が示唆された。イムラン, 5-FU, 6-MPの発がん性, 抗酸化剤による発がん性の機序, 発がん試験における分析化学上の問題点などを検討した

JST COPYRIGHT

902_rs_0035

レコードNo 1993:189882 JSTPLUS
整理No 93A0447688; L93303250
和文標題 発がん物質の規制決定に関する基礎的研究
原文標題 A basic research on the regulation determination of carcinogen.
著者名 林裕造, (衛試)
資料名 厚生省がん研究助成金による研究報告集
JST資料番号: Y0184A
VOL: 1989; , PAGE: 491-499, (1990/08)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 規制決定の方法に関する課題としては, 低用量外挿法のリスク評価への応用, 内分泌障害や臓器障害, 免疫抑制により発がん性が疑われる物質のリスク評価, 抗酸化剤による腫瘍発生
の意義, 発がん試験における分析化学上の問題点について検討した。また規制決定が考慮さ
れる物質 (ジエチレングリコール, 経口避妊薬) についての発がん性試験を行った

JST COPYRIGHT

902_rs_0036

レコードNo 1990:103637 TOXCENTER
和文標題 最小限度のリスク状態を処理するためいくつかのオプションに注目した規制いき値
原文標題 THRESHOLD OF REGULATION A LOOK AT SOME OPTIONS FOR HANDLING
MINIMAL RISK SITUATIONS
著者名 RULIS A M [Reprint author]
資料名 Abstracts of Papers American Chemical Society, (1990) Vol. 200, No. 1-2, pp. AGFD 163.
Meeting Info.: 200TH AMERICAN CHEMICAL SOCIETY NATIONAL MEETING,
WASHINGTON, D.C., USA, AUGUST 26-31, 1990. ABSTR PAP AM CHEM SOC CODEN:
ACSRAL. ISSN: 0065-7727.
発行国
言語 英語
抄録 FDAが新規食品添加剤について、市販前安全性評価を加えることについて報じた。食品の包
装からきょう雑するもの等についての規制について概説した。数年の検討期間において規制
いき値の設定をすることを速報した。

902_rs_0037

レコードNo 1991:235033 JSTPLUS
 整理No 91A0479249; K92032179, L92052560
 和文標題 医薬品等化学物質の毒性試験 1 毒性試験方法とLD50値 その最近の動向
 原文標題 Toxicologic evaluation of chemical agents. 1. Current methods for toxicity and LD50 determination.
 著者名 大野泰雄, (衛試)
 資料名 中毒研究
 JST資料番号: X0941A; ; ISSN: 0914-3777
 VOL: 4, NO: 2, PAGE: 105-114, (1991/04)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 ほ乳類を用いた毒性試験方法について簡単に解説したのち, 急性毒性試験において決定されるLD50値の意味および計算方法について述べた。ついで, 急性毒性に影響を与える動物種, 系統, 個体差, 年齢, 性, 栄養, 投与方法, 環境因子などの様々な因子について解説するとともに, LD50値の種差について人とマウスを例にあげて説明

JST COPYRIGHT

902_rs_0038

レコードNo 1992:133194 TOXCENTER
 整理No 92A0019087; K92052615, L92112665
 和文標題 直接的食品添加物および着色料の安全性評価のための発生毒性試験指針の改訂 調査結果
 原文標題 Updating developmental toxicity testing guidelines for the safety assessment of direct food additives and color additives used in food: results of a survey
 著者名 Collins, Thomas F. X.; Black, Thomas N.; Graham, Stuart L.; Jackson, Benjamin A.; Welsh, John J.
 資料名 Journal of the American College of Toxicology, (1991) Vol. 10, No. 4, pp. 461-75. CODEN: JACTDZ. ISSN: 0730-0913.
 発行国 UNITED STATES
 言語 英語
 抄録 1982年米国FDAは食品添加物と着色料の発生はいへの影響試験および数世代にわたる長期追跡のための指針を発行した。1984年以降その内で生殖・発生毒性に関する試験法の見直しが始まり, このため奇形学会・毒物学会員800名を対象に, 生殖試験法(供試動物の数・世代数, 薬物曝露期間, 測定・観察項目など)と発生毒性試験法(投与経路・量, 餌の種類, 観察法など)に関するアンケート調査が行われた。当結果をまとめ, 改訂の方向を考察

JST COPYRIGHT

902_rs_0039

レコードNo 1992:171237 JSTPLUS
整理No 92A0330699; C92313405, K92102338, L92321425
和文標題 神経毒性のスクリーニング 規制食品化学物質の毒物学的評価における適用
原文標題 Screening for Neurotoxicity: Application in the Toxicological Evaluation of Regulated Food Chemicals.
著者名 SOBOTKA T J, (Food and Drug Administration, Washington, D.C.)
資料名 J Am Coll Toxicol
JST資料番号: E0809D; , ISSN: 0730-0913
VOL: 10 , NO: 6, PAGE: 671-676, (1991/12)
発行国 United States (US)
言語 英語
抄録 食品添加物の毒性に関する従来の試験では、一般毒性、生殖能力、発生異常、発がん性、薬物動力学といった項目が重視され、神経毒性はほとんど無視されている。本報では、食品化学物質の毒性評価における神経毒性情報の重要性を指摘し、その現状を概観した。また、米国食品医薬品庁 (FDA) の赤書改訂作業と関連し、今後の神経毒性スクリーニングのあり方について提案した

JST COPYRIGHT

902_rs_0040

レコードNo 1992:157974 JSTPLUS
整理No 92A0307416; C92303409
和文標題 法規制のいき値 最小限度のリスク状態を処理するための選択
原文標題 Threshold of Regulation. Options for Handling Minimal Risk Situations.
著者名 RULIS A M, (U.S. Food and Drug Administration, Washington, D.C.)
資料名 ACS Symp Ser (Am Chem Soc)
JST資料番号: H0588B; , ISSN: 0097-6156
NO: 484, PAGE: 132-139, (1992)
発行国 United States (US)
言語 英語
抄録 FDAによる規制では、食品の包装品から不注意で移動する可能性がある微量の物質でも添加物として対象になるが、新規の申請を必要としない適切な規制のいき値を設定すべきであるとして、FDAの検討が行なわれている。いき値の選択、またはリスクを最小にする成分評価法について論じた

JST COPYRIGHT

902_rs_0041

レコードNo 93021998 EMBASE
 和文標題 動物の結果のヒトへの外挿法
 原文標題 Extrapolation in animal results to man.
 著者名 Doull J.
 資料名 Journal of Toxicological Sciences, (1992) 17/4 (260-261). ISSN: 0388-1350 CODEN: JTSCDR
 発行国 Japan
 言語 英語
 抄録 ヒトに対するデータが無いケースでの対象物質の毒性評価等をヒトへ置き換える点について、段階を置いたデータの利用について推奨した。四段階に分け、一段階目では急性および亜急性の毒性評価データ、二段階目では投与(各投与方法に従った)用量作用相関、次に対象情報データの合致性、最後の四段階目ではNOELデータの合致性としている。データの取り扱いについてACGIH TLV委員会やNAS/NRC委員会の情報も参考にすることを推奨している。

902_rs_0042

レコードNo 1992:380999 JSTPLUS
 整理No 92A0664827; C93073706, K93031908
 和文標題 量的リスク評価,食品用化学物質及び健康食品
 原文標題 Quantitative risk assessment, food chemicals, and a healthy diet.
 著者名 SCARLETT T, (Hyman, Phelps & McNamara, Washington, D.C.)
 資料名 Food Rev Int
 JST資料番号:E0194C; , ISSN:8755-9129; , CODEN:FRINEL
 VOL: 8 , NO: 2, PAGE:277-300, (1992)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 健康を促進する食物及び害を予防する食物を選択する判断材料としての明確な情報は無い。科学者や政府取締官は,食品に低レベルの化学物質をに暴露する量的リスク評価法を用いて,慢性毒性,特にがんに関する限られたデータを細かく論ずる。この評価法は,数的に危険を犯し,食品中の食品添加剤,残留農薬及び他の化学物質の判定を促進する。しかし,その化学物質の発がん機構について役立つ情報とならない

JST COPYRIGHT

902_rs_0043

レコードNo 1992:528230 JSTPLUS
整理No 93A0053532; J93063320
和文標題 天然添加物のサルモネラ菌に対する変異原性(第4報)
原文標題 Mutagenicity of Natural Food Additives in Salmonella typhimurium. (IV).
著者名 麻野間正晴, 山本勝彦, 宮部正樹, (名古屋市衛研)
資料名 名古屋市衛生研究所報
JST資料番号: F0865A; , ISSN: 0287-5241
NO: 38, PAGE: 81-85, (1992/10)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 天然添加物 29品目について Salmonella typhimuriumを用いた変異原性試験 (Ames試験) を行った。その結果, ルチン分解物 (プレートあたり 0.25 ~ 50 μ g), 茶抽出物 (2mg), グルコースイソメラーゼ (100mg), ゲンチアナ抽出物 (100mg) にいずれも変異原活性が認められた。天然添加物の安全性評価には, 製造工程, 食品加工, 消化吸収等の段階で予想される修飾作用についても検討する必要がある

JST COPYRIGHT

902_rs_0044

レコードNo 1992:23900 TOXCENTER
整理No 92A0204136; C92343534, K92111995, L92353129
和文標題 発がん性のリスクを評価する新手法
原文標題 A new approach to evaluating carcinogenic risk
著者名 Pariza M W
資料名 Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America, (1992 Feb 1) 89 (3) 860-1. Journal Code: 7505876. ISSN: 0027-8424.
発行国 United States
言語 英語
抄録 発がん性のリスク評価は, 動物実験の結果をヒトの暴露レベルに外挿することに基づいている。最大許容投与量(MTD)によって試験したすべての物質の約半数が発がんを誘導することに重大な課題が残る。MTDは, 敏感な組織において細胞の増殖を刺激する。一方, 一日許容摂取量は, この量を計算する際に無毒性量の1%に設定している。両者の関連について検討した。

JST COPYRIGHT

902_rs_0045

レコードNo 2002:566811 TOXCENTER
 和文標題 発生毒性スクリーニングとしてのニワトリはい網膜細胞培養の妥当性
 原文標題 Validation of chick embryo retina cell culture as a developmental toxicant screen.
 著者名 Daston G P; Baines D; Fitzgerald M P; Sharma S; Elmore E
 資料名 Toxicologist, (1993 Mar) 13 (1) 256. ISSN: 0731-9193.
 発行国
 言語 英語
 抄録 ニワトリはい神経網膜細胞(CERC)を用いて、in vivo で毒性の有無が確認されている44種類の化合物(薬物、金属、溶剤、食品添加剤)について生物活性を調べた。これら化合物は細胞致死濃度、又は最高濃度5mg/ml でテストした。その結果、CERCとin vivo の結果の一致率は81%であった。また、CERC分析は4種類の関連アルコキシ酸の効力も正しくランク付けした。従って、CERC分析はin vivo の発生毒性結果とよく一致すること、予備的発生毒性スクリーニング法として利用するためにはさらに補完が必要ながことが分かった。

902_rs_0046

レコードNo 1993:304310 JSTPLUS
 整理No 93A0639934; C93354030
 和文標題 16.GRAS物質
 原文標題 16. GRAS Substances.
 著者名 SMITH R L, (Univ. London, London, GBR) FORD R A, (Research Inst. Fragrance Materials, NJ)
 資料名 Food Technol
 JST資料番号:C0006A; , ISSN:0015-6639; , CODEN:FOTEAI
 VOL: 47 , NO: 6, PAGE:104,106,108,112,114,116-117, (1993/06)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 フレーバ・エキストラクト製造業協会の専門家パネルは GRAS物質についてフレーバ原料としての評価を続けている。2年にわたる審査の結果、22の新しいフレーバをGRASとして認定した。全米毒物学プログラム(NTP)のフレーバ原料である α -メチルベンジルアルコールおよびベンズアルデヒドが発がん物質であるとのデータを検討した結果、ともに GRASとして問題なしと同パネルは結論した

JST COPYRIGHT

902_rs_0047

レコードNo 1993:175005 TOXCENTER
和文標題 酵母の試験:薬物と環境化合物の急性毒性試験のための代替法
原文標題 The yeast test: an alternative method for the testing of acute toxicity of drug substances and environmental chemicals
著者名 Koch, Heinrich P.; Hofeneder, Maria; Bohne, Bernd
資料名 Methods and Findings in Experimental and Clinical Pharmacology, (1993) Vol. 15, No. 3, pp. 141-52. CODEN: MFEPDX. ISSN: 0379-0355.
発行国 AUSTRIA
言語 英語
抄録 食品添加剤、薬物および環境汚染物質等のLD50急性毒性等の安全性試験で伝統的に動物を使って試験しているが、酵母を使用することによる簡便性かつ迅速性のメリットを上げ、その正確性とメリットを概説し、推奨した。酵母はSaccharomyces cerevisiaeが通常使用され、試験開始後30、90、150および210分位で結果を得ることができる。今まで、約160種の通常の医薬品の酵母実験で得たLD50が、他の動物で得たLD50と良く関連した。

902_rs_0048

レコードNo 1993:244762 JSTPLUS
整理No 93A0543082; K94022385, L94013061
和文標題 安全性評価の原点 急性毒性試験
原文標題 The Basis of Safety Assessment. Acute Toxicity Study.
著者名 三崎義則, 磯部直彦, 川崎一, (住友化学工業 生物環境科学研)
資料名 住友化学
JST資料番号:F0315A; , ISSN:0387-1312
VOL: 1993 , NO: 1, PAGE:32-40, (1993/05)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 筆者等の研究所で実施している小動物(ラット,マウス)を用いた急性毒性試験について、データの用途,試験指針,方法,急性毒性試験に影響を与える因子,代替試験法について紹介した。急性毒性試験は毒性症状の検出あるいは発現機序の解析に重点が移りつつあり,また欧米諸国では動物愛護の立場から動物代替研究が盛んになってきている

JST COPYRIGHT

902_rs_0049

レコードNo 1994:66593 TOXCENTER
和文標題 一日許容摂取量および一日耐容摂取量の過剰のリスク分析
原文標題 An analysis of the risk of exceeding the acceptable or tolerable daily intake
著者名 Renwick, A. G. [Reprint author]; Walker, R.
資料名 Regulatory Toxicology and Pharmacology, (1993) Vol. 18, No. 3, pp. 463-480. CODEN: RTOPDW. ISSN: 0273-2300.
発行国
言語 英語
抄録 一日許容摂取量および一日耐容摂取量の過剰リスクの因子分析について概説した。食品添加剤や食品きょう雑物の一日許容摂取量(ADI)および一日耐容摂取量(TDI)は通常動物の急性毒性実験から得られる。ADIおよびTDIは対象食品添加剤や食品きょう雑物の無作用量(NOEL)の決定に重要である。ヒトに適応させる時に、動物実験値の妥当性を慎重に量らねばならない。動物実験でのプロトコル設定で、ヒトでの摂取期間がポイントとなる。

902_rs_0050

レコードNo 94191378 EMBASE
和文標題 アメリカの食品および薬物のDelaney条項はヒトのがんを防御できるか?
原文標題 Does the Delaney Clause of the U.S. Food and Drug Laws prevent human cancers?.
著者名 Weisburger J.H.
資料名 Fundamental and Applied Toxicology, (1994) 22/4 (483-493). ISSN: 0272-0590 CODEN: FAATDF
発行国 United States
言語 英語
抄録 FDAのDelaney条項は、1958年にヒトおよび動物に対してがんを発生させる化学物質のヒト食品への混入を防ぐために発効された。1950年台に発表されたがんの原因およびがん発生の機構(DNAに起因する変化)についての遺伝科学的知識についてまとめている。がん発生の遺伝毒性試験についてはSalmonella typhimuriumのAmes試験、肝細胞DNA対のWilliams試験およびRanderathの32P標識DNA試験を含んでいる。

902_rs_0051

レコードNo 94081611 EMBASE
和文標題 発達毒性試験における行動的評価:MARTA調査結果
原文標題 Behavioral evaluations in developmental toxicity testing: MARTA survey results.
著者名 Lochry E.A.; Johnson C.; Wier P.J.
資料名 Neurotoxicology and Teratology, (1994) 16/1 (55-63). ISSN: 0892-0362 CODEN: NETEEC
発行国 United States
言語 英語
抄録 中央大西洋再生および催奇形性協会(MARTA:Middle Atlantic Reproduction & Teratology Association)が1991年に行った標題に関する調査結果をまとめた。

902_rs_0052

レコードNo 1995:162810 TOXCENTER
和文標題 低用量化学物質の感受性:行動毒性学からの見通し
原文標題 Low-level chemical sensitivity: A perspective from behavioral toxicology
著者名 Weiss, Bernard
資料名 Toxicology and Industrial Health, (1994) Vol. 10, No. 4/5, pp. 605-17. CODEN: TIHEEC. ISSN: 0748-2337.
発行国 UNITED STATES
言語 英語
抄録 リスク評価過程は特に低暴露量による健康への被害を評価するために企てられている。神経行動毒物への応用は、神経毒性の評価において考慮しなければならないエンドポイントの多様性のために難しくなっている。多重化合物感受性(MCS)、シックビル症候群(SBS)のような問題もある。実験計画法は考慮しなければならないもうひとつの因子である。揮発性有機溶媒、食品添加剤を含む多くの物質の潜在毒性を評価する方法について述べた。子供に対して行った食用着色料の研究、食用着色料の行動応答を惹起させる用量と一日摂取許容量、化合物に対する応答者と非応答者の母集団や比率など、図表と共に解説した。

902_rs_0053

レコードNo 1995:649689 JSTPLUS
整理No 96A0045604; C96104143
和文標題 食品中の化合物のリスク評価のためのバイオマーカーの使用における主要な論点
原文標題 Key Issues in the Use of Biomarkers for Assessing Risks from Food Chemicals.
著者名 SHERLOCK J C, (Head of Food Sci. Div., Ministry of Agriculture, Fisheries and Food, London, GBR)

資料名 Spec Publ R Soc Chem
JST資料番号: B0186B; , ISSN: 0577-618X
NO: 175, PAGE: 1-8, (1995)

発行国 United Kingdom (GB)

言語 英語

抄録 バイオマーカー (1)について、食品中の化合物のリスク評価に焦点を合わせて述べた。リスクの判断や基準の設定のための1の使用は古く、現在の科学は以前には不可能であった範囲まで調査を行っている。発展の可能性はあるが時間がかかり、科学者よりも研究費の多大な投資によりリスクの定量が始まるであろう

JST COPYRIGHT

902_rs_0054

レコードNo 1995:183138 TOXCENTER
整理No 95A0705482; L95333741
和文標題 発生毒性物質のスクリーニングとしてのニワトリはい網膜神経細胞培養の評価
原文標題 Evaluation of chick embryo neural retina cell culture as a screen for developmental toxicants
著者名 Daston, George P.; Baines, Donald; Elmore, Eugene; Fitzgerald, Mary P.; Sharma, Sheela
資料名 Fundamental and Applied Toxicology, (1995) Vol. 26, No. 2, pp. 203-10. CODEN: FAATDF. ISSN: 0272-0590.

発行国 UNITED STATES

言語 英語

抄録 発生毒性を持つ化学物質のin vitroスクリーニングの結果がin vivoに反映できるかを、初代培養ニワトリはい神経網膜細胞と総数45の化学物質を用いて調べた。調査パラメータとしては、多細胞凝集形成、蛋白質含量、グルタチオン合成酵素活性を取り上げた。その結果、この系は種々の異なるグループの発生毒性に一致する結果を与えることから、予備的発生毒性スクリーニングの手段として有用であると報告した

JST COPYRIGHT

902_rs_0055

レコードNo 1996:140105 TOXCENTER
和文標題 催奇性試験のための方法-現行と将来モデル
原文標題 Methods for teratogenicity testing - existing and future models
著者名 Kotwani, Anita; Mehta, V.L.; Gupta, U.; Prabhu, S.; Bapna, J.S.
資料名 Indian Journal of Pharmacology, (1995) Vol. 27, No. 4, pp. 204-13. CODEN: INJPD2. ISSN: 0253-7613.
発行国 INDIA
言語 英語
抄録 現行では、薬物のスクリーニングテストを含めて安全性の評価・試験に、げっ歯類での催奇形性試験を含む各種試験 (in vivo実験) やヒトでの疫学的調査が用いられている。新規医薬品や食品添加物の開発の増加に伴い、安全性の評価・試験に安価で、迅速で、効果的・効率的評価試験法が求められている。そのために、現行のその他の方法として、in vitro実験で、例えば、ほ乳類器官組織培養、脊椎動物や両生類はいの組織培養あるいは細胞培養系での試験が、提案されている。In vivo試験を行う化合物を予測できるようになる。

902_rs_0056

レコードNo 96067509 EMBASE
和文標題 一日許容摂取量および一日耐容摂取量の推測における毒性性状のための追加的安全性および不確定因子の利用
原文標題 The use of an additional safety or uncertainty factor for nature of toxicity in the estimation of acceptable daily intake and tolerable daily intake values.
著者名 Renwick A.G.
資料名 Regulatory Toxicology and Pharmacology, (1995) 22/3 (250-261). ISSN: 0273-2300 CODEN: RTOPDW
発行国 United States
言語 英語
抄録 食品添加剤、食品きょう雑物および環境汚染原因物質等のヒトへのがん発生等への危険性から、一日許容摂取量および一日耐容摂取量の推測において毒性性状のための追加的安全性および不確定因子の利用について概説した。1989年にILSI (International LifeSciences Institute) ヨーロッパが一日許容摂取量(ADI)に関する会議を開いて以来、多くの議論がなされている標題について、無毒性量(NOEL)および重要視している一日耐容摂取量(TDI)を含めて論点を説明した。

902_rs_0057

レコードNo 1996:66959 TOXCENTER
和文標題 規制目的のためのげっ歯類肝発がんの考慮事項問題点
原文標題 Problems in consideration of rodent hepatocarcinogenesis for regulatory purposes
著者名 Moch R W; Dua P N; Hines F A
資料名 Toxicologic pathology, (1996 Jan-Feb) 24 (1) 138-45. Ref: 28. Journal Code: 7905907. ISSN: 0192-6233.
発行国 United States
言語 英語
抄録 FDAのCenter for Food Safety & Applied Nutrition(CFSAN)の標題に関するB6C3F1マウスを使用した実験、CD-1マウスを使用した実験、Sprague-Dawleyラットを使用したについての実例、およびFischer-344ラットを使用した実例で問題点を挙げレビューを行った。対象試験品は化粧品用色素、抗微生物剤、人工甘味料等で行っている。

902_rs_0058

レコードNo 1996:156540 TOXCENTER
和文標題 発生遺伝発がん物質:判定とリスク評価
原文標題 Epigenetic carcinogens: Evaluation and risk assessment
著者名 Williams, Gary M.; Whysner, John
資料名 Experimental and Toxicologic Pathology, (1996) Vol. 48, No. 2-3, pp. 189-195. CODEN: ETPAEK. ISSN: 0940-2993.
発行国 UNITED STATES
言語 英語
抄録 4つの化学物質;d-リモネン、ブチルヒドロキシアニソール(BHA)、フェノバルビタール(PB)、サッカリンナトリウム(NaSac)の反応機構情報を分析することにより、発生遺伝発がん物質のリスク評価法をまとめた。この4つの化合物はどれもヒトに対する曝露濃度ではがんになるリスクは認められなかった。反応機構原理はそれぞれの物質で異なるので、ケースバイケースの種特異的、用量-作用知見の分析結果を解説した。これらの発がん物質において、高濃度でマウスやラットに腫瘍発生をもたらす反応機構はヒトにとって適当な濃度では働かないと考えられる。

902_rs_0059

レコードNo 1996:39850 TOXCENTER
 和文標題 EPAにおけるDelaney条項の影響
 原文標題 Impact of the Delaney Clause in the EPA
 著者名 Fenner-Crisp P A
 資料名 Experimental and toxicologic pathology : official journal of the Gesellschaft fur Toxikologische Pathologie, (1996 Feb) 48 (2-3) 199-200. Journal Code: 9208920. ISSN: 0940-2993.

発行国 GERMANY: Germany, Federal Republic of
 言語 英語
 抄録 アメリカ環境保護庁(EPA)はアメリカ国内の農薬使用を規制する役所で、その規制は連邦殺虫剤防かび剤殺鼠剤法(FIFRA)、連邦食品医薬品化粧品法(FFDCA)に依っている。ヒトや家畜の農薬許容量はFFDCAの408、409条に載っている。本稿ではFFDCAの408条と409条及びFIFRAとの間にある矛盾点、1987年国立科学アカデミーによる勧告「食品中の農薬規制-Delaneyパラドックス」、EPAによるこの勧告実行の試み、がん誘導化学物質を含む食品の許容量に対するEPAの認定能のDelaney条項の実質的影響、Delaney条項を守るための法規則の状態、について解説した。

902_rs_0060

レコードNo 1996:39852 TOXCENTER
 和文標題 非遺伝毒性発がん物質を特に考慮した場合の食品中発がん物質のリスク評価 特にリスク評価利用とDelaney条項変更についての科学的論議
 原文標題 Risk assessment of carcinogens in food with special consideration of non-genotoxic carcinogens. Scientific arguments for use of risk assessment and for changing the Delaney Clause specifically
 著者名 Williams G M; Karbe E; Fenner-Crisp P; Iatropoulos M J; Weisburger J H
 資料名 Experimental and toxicologic pathology : official journal of the Gesellschaft fur Toxikologische Pathologie, (1996 Feb) 48 (2-3) 209-15. Ref: 21. Journal Code: 9208920. ISSN: 0940-2993.

発行国 GERMANY: Germany, Federal Republic of
 言語 英語
 抄録 「非遺伝毒性発がん物質を特に考慮した場合の食品中発がん物質のリスク評価」という文書が国際毒性学病理医学会連合から1995年に出された。この文書は最新の発がん物質リスク評価とDelaney条項の時代遅れを知らせるために書かれた。この文書では、ヒトが食品から摂取し、科学的根拠に基づいたリスク評価の必要性のある化学物質をいくつか例示している。適切なリスク評価法を使って無視できるほどのリスクを確認することにより無益なDelaney条項の廃止を求めている。これにより、アメリカ政府は食品中化学物質の使用を現在の適切な科学的方法により、ケースバイケースで規制できるようになるであろう。

902_rs_0061

レコードNo 1997:80281 TOXCENTER
和文標題 食品と食品添加剤によるアレルギーおよび不耐性の発生学: データ有効性の問題
原文標題 Epidemiology of allergies and intolerances caused by foods and food additives: The problem of data validity
著者名 Wuethrich, Brunello
資料名 Eisenbrand, G.; Aulepp, J.; Grunow, A. D.; Ring, J.; Schlatter, J.; Koel, W.; Baum, M. (1996) pp. 31-39. Food allergies and intolerances. Ref: VCH Verlagsgesellschaft mbH, Postfach 10 11 61, Boschstrasse 12, D-6940 Weinheim, Germany; VCH Publishers, Inc., Suite 909, 220 East 23rd Street, New York, New York 10010, USA. Meeting Info.: Deutsche Forschungsgemeinschaft Symposium ISBN: 3-527-27409-X.
発行国
言語 英語
抄録 食品および食品添加物由来の食品アレルギー (FA) と食物不耐性 (FI) の罹患について分かり難い点等の定義上の問題にも触れ、現状のFAとFIの関連情報を概説した。標題について、今後続くデータ数 (穿刺試験や免疫学的試験のDBPCFC等) の増加も踏まえ、将来の解決性に期待した。

902_rs_0062

レコードNo 2002:574385 TOXCENTER
和文標題 発生毒性学および公衆衛生/規制アプローチにおけるリスク評価
原文標題 Risk assessment in developmental toxicology and public health/regulatory approaches.
著者名 Schwetz B; Greenman D
資料名 OCCUPATIONAL HYGIENE, (1996) 2 (1-6) 439-44. ISSN: 1061-0251.
発行国
言語 英語
抄録 米国における発生毒性データのために用いられるリスク評価実践の背後にある仮定および規制原理について要約し、グリコールエーテルのリスク評価についていくつかの特別な情報を提供した。食品添加剤や化粧品、医薬品にグリコールエーテルは多く用いられている。リスク評価に用いられる仮定、グリコールエーテルの規制について解説した。疫学、動物実験、発生毒性などのデータ、最大無作用量 (NOAELs) などからリスク評価がなされている。2-メトキシエタノール、2-エトキシエタノールなど、グリコールエーテルの使用は、米国においてはOSHA (米国職業安全衛生局)、EPA (米国環境保護庁)、FDA (米国食品薬品局)、CPSC (米国消費者製品安全委員会) の4つの機関で規制されている。

902_rs_0063

レコードNo 1996:44890 JMEDPLUS
整理No 96A0541516
和文標題 医薬品添加物と気管支ぜん息
原文標題 Drug Additives and Bronchial Asthma.
著者名 榊原博樹, 谷口正実, 大河原重榮, (藤田保健衛生大 医)
資料名 呼吸と循環
JST資料番号: Z0660A; , ISSN: 0452-3458
VOL: 44 , NO: 6, PAGE: 621-629, (1996/06)

発行国 Japan (JP)

言語 日本語

抄録 食品・医療添加物のなかには, 一部の気管支ぜん息やじん麻疹患者に過敏反応を引き起こすものがある。特に非ステロイド性抗炎症薬に過敏な, いわゆるアスピリンぜん息やアスピリン過敏性じん麻疹をもつ患者に, 食品添加物過敏症が多い。注意すべき添加物として食用黄色5号, 安息香酸ナトリウム, パラオキシ安息香酸エステル類, 亜硫酸塩類を挙げ, 解説した

JST COPYRIGHT

902_rs_0064

レコードNo 1996:332642 JSTPLUS
整理No 96A0639950; J96103898
和文標題 化学物質の発がん性リスクアセスメント
原文標題 Carcinogenic Risk Assessment of Chemicals.
著者名 林裕造, (北里大 薬)
資料名 食品衛生研究
JST資料番号: F0522A; , ISSN: 0559-8974; , CODEN: SHEKAL
VOL: 46 , NO: 7, PAGE: 65-71, (1996/07)

発行国 Japan (JP)

言語 日本語

抄録 化学物質の発がん性リスクアセスメントを実施する際の, 基本的考え方を次の4項目に分けて述べた。1) リスクアセスメントが意味するもの, 2) リスクアセスメントが意図するもの, 3) リスクアセスメントを支えるもの (有害性確認, 暴露評価, 用量反応評価, リスク判定, 科学的情報とリスクアセスメント), 4) リスクアセスメントを活かすもの (基本的事項, リスクアセスメントの再吟味, リスクマネジメントの難易)

JST COPYRIGHT

902_rs_0065

レコードNo 1997:79400 TOXCENTER
整理No 97A0113026; L97133292
和文標題 免疫毒性を規定するガイドラインの展望
原文標題 Perspectives on immunotoxicity regulatory guidelines
著者名 Harling, R. J.
資料名 Inflammation Research, (1996) Vol. 45, No. SUPPL. 2, pp. S69-S73. ISSN: 1023-3830.
発行国
言語 英語
抄録

ヨーロッパ,日本およびアメリカにおける標題ガイドラインの現在の状況を総説した。最初に,各国で免疫毒性試験の前に必要な遅延型過敏症試験と抗原性試験についてまとめた。次に,日本とヨーロッパにおける免疫毒性試験を示し,アメリカの食品医薬品局のドラフトレッドブックII,アメリカ毒物学プログラムおよび環境保護局のガイドラインについてまとめた

JST COPYRIGHT

902_rs_0066

レコードNo 2002:574251 TOXCENTER
和文標題 食品添加剤の雌性繁殖毒性評価のための試験指針
原文標題 Testing guidelines for evaluation of female reproductive toxicity of food additives.
著者名 Collins T F
資料名 INTERNATIONAL JOURNAL OF TOXICOLOGY, (1997) 16 (1) 81. ISSN: 1091-5818.
発行国
言語 英語
抄録

食品添加剤の安全性試験における発展性(生殖・成長・死亡の過程を通じての)毒性の評価についてFDA Redbook IIを紹介・短報した。発展性毒性として形態異常、成長遅延、機能欠乏等がある。

902_rs_0067

レコードNo 2002:574252 TOXCENTER
和文標題 発がん性試験での子宮内暴露の利用
原文標題 Carcinogenicity testing utilizing in utero exposure.
著者名 Hattan D G
資料名 INTERNATIONAL JOURNAL OF TOXICOLOGY, (1997) 16 (1) 82. ISSN: 1091-5818.
発行国
言語 英語
抄録 食品添加剤と農薬に関する発がん性試験における出生後の実験と子宮内の実験に差が生じたことを報告した。エチレンチオ尿素の子宮内の投与では若干高い発がん性を示したが、逆に通常方法が高い結果を示すものもあった。

902_rs_0068

レコードNo 1998:221444 JSTPLUS
整理No 98A0480152; K98083424, L98213273
和文標題 免疫毒性試験ガイドラインの国際的動向 免疫病理学的検査を中心に
原文標題 International trend on immunotoxicity testing guidelines in experimental animals: Immunopathological examinations.
著者名 三森国敏, (医薬品食品衛研)
資料名 免疫毒性研究会講演要旨集
JST資料番号:L3387A
VOL: 4th; , PAGE:14-15, (1997/09)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 OECDでは従来の28日間反復投与毒性試験ガイドラインに、さらに免疫毒性の検出力を強化した免疫毒性スクリーニング手法を導入することが検討され、1995年にその改訂ガイドラインが勧告された。日本では1996年、食品添加物の指定および使用基準改正に関する指針が公表された。この指針では安全性に関する試験の標準的実施事項として、28日、90日、1年間反復投与毒性試験、および1年間反復投与毒性/発がん性試験や抗原性試験等が示されている。EPAでは通常の化学合成品としての農薬の評価に、機能試験を含まない通常の病理試験項目を免疫毒性スクリーニングとして毒性試験に組み込むことを勧告した。また、1996年に米国農薬有害物質防止局は、従来の農薬取締法や有害物質取締法の異なったガイドラインをひとつに統合し、全ての毒性領域をカバーする種々の新しいガイドライン案を作成した。免疫毒性を検出するための検査項目が記載されている試験としては、亜慢性毒性試験、皮膚感受性試験、免疫毒性試験がある。

JST COPYRIGHT

902_rs_0069

レコードNo 1998:13337 JMEDPLUS
 整理No 98A0258255
 和文標題 食品添加物と食品中天然物質の複合作用及びその毒性評価について
 原文標題 Toxicological evaluation of co-administration of food additives and natural food components.
 著者名 SUN B, (公衆衛生院)
 資料名 公衆衛生研究
 JST資料番号:F0799A; , ISSN:0916-6823; , CODEN:KEIKEA
 VOL: 46 , NO: 3, PAGE:252-253, (1997/09)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 標題の複合作用を,酸化防止剤として使われているBHTや食品含有天然物であるフラボノイド摂取をさせた,マウスとハムスターを用いて調べた。これら物質の作用指標には変異原物質の活性化を用い,さらにその活性化の作用機序を異物代謝酵素の面から評価した。その結果,合成食品添加物や天然食品中成分の同時投与により強い複合作用を来し,これが実際の食生活でも起こり得ることがわかった。また,その作用機序は物質に特異的な異物代謝酵素分子種の増加によることが明らかになった。さらに,今回の実験方法を用いて,長期複合作用の予測ができる可能性が示唆された。

JST COPYRIGHT

902_rs_0070

レコードNo 1998031307 EMBASE
 和文標題 U.S. 食品医薬品局における健康リスク評価実施法
 原文標題 Health risk assessment practices in the U.S. Food and Drug Administration.
 著者名 Gaylor D.W.; Axelrad J.A.; Brown R.P.; Cavagnaro J.A.; Cyr W.H.; Hulebak K.L.; Lorentzen R.J.; Miller M.A.; Mulligan L.T.; Schwetz B.A.
 資料名 Regulatory Toxicology and Pharmacology, (1997) 26/3 (307-321). Refs: 51 ISSN: 0273-2300
 CODEN: RTOPDW
 発行国 United States
 言語 英語
 抄録 FDAは消費者の健康リスクに関与する各種あらゆる食品、生物製剤、化学品等の製品や、製品自体でなくきょう雑的物質あるいは、電子デバイスからの放射等広い安全性評価が必要とされるが、その各種評価の概念について、概説した。一日許容摂取量(ADI)等の用語や各種試験方法についても説明した。

902_rs_0071

レコードNo 1998:2542 JSTPLUS
 整理No 98A0122331; K98030214, L98041241
 和文標題 環境有害因子の検出に姉妹染色分体交換の応用
 原文標題 Study on sister chromatid exchange in detecting environmental toxicfactors.
 著者名 YI H, (Shanxi Univ., Taiyuan) ZHANG Z, (Nankai Univ., Tianjin)
 資料名 Zhongguo Huanjing Kexue
 JST資料番号: W0841A; , ISSN:1000-6923; , CODEN: ZHKEEI
 VOL: 17 , NO: 5, PAGE:440-442, (1997/10/20)

発行国 China (CN)

言語 中国語

抄録

ヒト血液リンパ細胞とオオムギ根端細胞に対して、姉妹染色分体交換 (SCE) 実験を行った。その結果、変異誘導物としてのマイトマイシン C、アクチノマイシン D、イソニコチン酸ヒドラジン及びビサッカリンナトリウムは SCE 頻度を著しく増加させることが分かった。そのうえ、二種類の細胞の SCE 誘発の値はよく一致し、植物細胞の SCE は環境中変異誘導剤の検出にヒト血液リンパ細胞と同様に敏感かつ有効であることを示した。また、高濃度の非誘導剤培地の条件においても、植物若苗の発育が抑えられ、処理の前期に若苗の根端細胞の SCE 値を明らかに高めることを検出した。オオムギの SCE 実験は、環境中の重金属 Cr と Cd に対して濃度が低くても検出でき、環境中の有害因子の検出に有効であることを示した。

JST COPYRIGHT

902_rs_0072

レコードNo 97071361 EMBASE
 和文標題 食品医薬品局における健康リスク評価-プロセスと毒性病理学
 原文標題 Food and drug administration risk assessment - Process and toxicologic pathology.
 著者名 Moch R.W.; Dua P.N.; Hines F.A.
 資料名 Toxicologic Pathology, (1997) 25/1 (61-67). Refs: 12 ISSN: 0192-6233 CODEN: TOPADD
 発行国 United States
 言語 英語
 抄録 FDAのCFSAN(Center for Food Safety & Applied Nutrition)が管轄・運営する標題の評価法の内容・機構についてまとめた。ラット、マウスを使った3例(2年間連邦毒物学プログラムNTP、食品添加剤の急性毒性試験、新規治験薬試験)の実例を上げて説明した。

902_rs_0073

レコードNo 1997:48380 JMEDPLUS
 整理No 97A0553929
 和文標題 食物アレルギーと臨床栄養 食物アレルギーと食品添加物
 原文標題 Food allergy and clinical nutrition. Food allergy and food additives.
 著者名 森川昭広, (群馬大 医)
 資料名 臨床栄養
 JST資料番号:G0885A; , ISSN:0485-1412; , CODEN:RNEYAW
 VOL: 90 , NO: 7, PAGE: 799-802, (1997/06)

発行国 Japan (JP)

言語 日本語

抄録 食物の保存上の問題から多くの食品添加物が用いられるようになり,これらによる過敏性の増加もアレルギー性疾患増加の原因となっている可能性がある。食物アレルギーと食品添加物について,次項により解説した。1)食品添加物の免疫への影響,2)摂取食物の変化,3)食品添加物と疾患(ぜん息,じん麻疹,接触性皮膚炎,アトピー性皮膚炎,多動)。

JST COPYRIGHT

902_rs_0074

レコードNo 1998:124464 JSTPLUS
 整理No 98A0331946; C98134157, L98143480
 和文標題 食品,栄養及びがんの予防 全体的見通し
 原文標題 Food, nutrition and the prevention of cancer: A global perspective.
 著者名 BENDER A E
 資料名 Food Sci Technol Today
 JST資料番号:W0217A; , ISSN:0950-9623
 VOL: 12 , NO: 1, PAGE: 25-28, (1998/03)

発行国 United Kingdom (GB)

言語 英語

抄録 20世紀の後半にはヒトはウイルスや化学物質に曝されるようになり,1996年には世界で1千万人のがん患者が出ている。また最近発がんへの食事の影響が指摘されるようになった。世界がん研究基金と AICRは世界9か国 15人の専門家に人の発がんリスクに関連する文献のレビューを依頼し,1997年英国での会合で結論が公表された。発がんリスクは主リスクのタバコ以外 30~70%は食事にあり,脂肪の高摂取でリスクが増加するとしている。リスク要因の解析は,確信あり,有望,可能性有り,不十分の4クラスに分けて行った。リスク要因として,食品加工の加熱,塩漬,食品添加物,甘味料,汚染物,微生物汚染に言及した。また植物由来食品の摂取等望ましい食事摂取のあり方を勧告した。

JST COPYRIGHT

902_rs_0075

レコードNo 1998:331302 JSTPLUS
 整理No 98A0649593; C98224055, K98083437, L98253638
 和文標題 食品添加物に関する雌における生殖毒性および発達毒性を評価するための試験指針
 原文標題 Testing guidelines for evaluation of reproductive and developmental toxicity of food additives in females.
 著者名 COLLINS T F X, SPRANDO R L, (U.S. Food and Drug Administration, Maryland, USA)
 HANSEN D L, (National Center for Toxicological Res., Arkansas, USA) SHACKELFORD M E, WELSH J J, (Center for Food Safety and Applied Nutrition, Washington, DC, USA)
 資料名 Int J Toxicol
 JST資料番号: E0809D; , ISSN: 1091-5818; , CODEN: IJT OFN
 VOL: 17 , NO: 3, PAGE: 299-325, (1998/05-1998/06)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 食品添加物の母性およびはいに対する作用を試験する指針(レッドブック)が1982年にFDAから出され, 催奇形性, 発達毒性および多世代生殖毒性の試験法が示された。このレッドブックが1993年に改訂され(ドラフト), 発達中の生物に対する作用(死亡, 奇形, 成長遅滞, 機能障害)が明示された。本稿では, 新しいレッドブックにおける発達毒性および多世代生殖毒性試験の指針を示し, EPA指針ドラフトおよびOECD指針と比較した。

JST COPYRIGHT

902_rs_0076

レコードNo 1998:331303 JSTPLUS
 整理No 98A0649594; C98224056, K98083438, L98253639
 和文標題 雄の生殖に対する食品添加物の作用を評価するための試験指針
 原文標題 Testing guidelines for evaluation of food additives' effects on male reproduction.
 著者名 SPRANDO R L, COLLINS T F X, (U.S. Food and Drug Administration, Maryland, USA)
 資料名 Int J Toxicol
 JST資料番号: E0809D; , ISSN: 1091-5818; , CODEN: IJT OFN
 VOL: 17 , NO: 3, PAGE: 327-336, (1998/05-1998/06)
 発行国 United States (US)
 言語 英語
 抄録 食品添加物の雄の生殖毒性に関する改訂FDA指針(レッドブック)について解説した。雄の生殖毒性を評価する各種エンドポイント(臓器重量, 組織病理, 精子の運動性・形態・数など)が指針に示されている。なお, この指針はEPAなどの他に指針との調整が行われているという。

JST COPYRIGHT

902_rs_0077

レコードNo 1998:150052 TOXCENTER
 整理No 98A0649596; C98224058, K98083440, L98253641
 和文標題 食品添加物に関するFDAレッドブック指針における薬物動力学データの利用
 原文標題 Use of pharmacokinetic data under the FDA's Redbook II guidelines for direct food additives
 著者名 Roth, William L.; Young, John F.
 資料名 International Journal of Toxicology, (1998) Vol. 17, No. 3, pp. 355-381. CODEN: IJTQFN. ISSN: 1091-5818.
 発行国 UNITED STATES
 言語 英語
 抄録 1993年3月にFDAの食品添加物の安全性に関する指針(レッドブック)の改訂(レッドブックII)のドラフトを公開し、公衆の意見を求めた。本稿では、改訂指針における薬物動力学研究のデザインについての合理性を示し、問題点を論じた。特に、薬物動力学情報が毒性試験結果の解釈に必要なこと、毒性試験前に行うことが非常に有用であることを述べている。

JST COPYRIGHT

902_rs_0078

レコードNo 1998:78600 TOXCENTER
 和文標題 安全性及びリスク評価における低濃度暴露影響の包括に対するアメリカ食品医薬品局の見通し
 原文標題 U.S. Food and Drug Administration perspective of the inclusion of effects of low-level exposures in safety and risk assessment
 著者名 Gaylor, David W. [Reprint author]; Bolger, P. Michael; Schwetz, Bernard A.
 資料名 Environmental Health Perspectives, (Feb., 1998) Vol. 106, No. SUPPL. 1, pp. 391-394. print. CODEN: EVHPAZ. ISSN: 0091-6765.
 発行国
 言語 英語
 抄録 本稿ではアメリカFDAの各センターが市販製品の毒性物質の低濃度暴露評価に使用している安全性及びリスク測定法をいくつか紹介した。FDAのそれぞれのセンターは食品と化粧品、家畜用医薬品、医療装置と放射線、ヒト用医薬品、生物製剤の安全性に責任を持っている。次の6センターの仕事を解説した。1) 食品安全と応用栄養センター、2) 家畜用医薬品センター、3) 装置と放射線健康センター、4) 薬物の評価と研究センター、5) 生物製剤の評価と研究センター、6) 国立毒性学研究センター。

902_rs_0079

レコードNo 1998053726 EMBASE
 整理No 98A0299348; C98114174, K98062967, L98123359
 和文標題 乳児及び子供に対する食品添加剤のADI(一日摂取許容量)の適合性
 原文標題 The applicability of the ADI (Acceptable Daily Intake) for food additives to infants and children.
 著者名 Ostergaard G.; Knudsen I.
 資料名 Food Additives and Contaminants, (1998) 15/SUPPL. (63-74). Refs: 17 ISSN: 0265-203X
 CODEN: FACOEB
 発行国 United Kingdom
 言語 英語
 抄録 まず,食品添加剤に関する合同FAO/WHO専門委員会及び毒性試験とADIの導出を述べた。次いで,化学的刺激作用に対する感受性の乳児・子供と成人との生物学的相違について,基礎代謝,標的器官の感受性,代謝特性,薬物動力学,器官特性,ヒトと動物の発生,毒性物質のいき値,動物とヒトとの種差及び混合化学物質による暴露の影響などを解説した。最後に,食品添加剤による子供の暴露を論じ,ADI確立に用いたOECDガイドラインの要旨を紹介した。

JST COPYRIGHT

902_rs_0080

レコードNo 1999:60129 TOXCENTER
 和文標題 繁殖試験のために米国食品薬品局が提案する試験のガイドライン。審査委員会。発生毒性および生殖のためのFDAガイドライン、米国食品薬品局
 原文標題 Food and Drug Administration proposed testing guidelines for reproduction studies. Revision Committee. FDA Guidelines for Developmental Toxicity and Reproduction, Food and Drug Administration
 著者名 Collins T F; Sprando R L; Shackelford M E; Hansen D K; Welsh J J
 資料名 Regulatory toxicology and pharmacology : RTP, (1999 Aug) 30 (1) 29-38. Journal Code: 8214983. ISSN: 0273-2300.
 発行国 United States
 言語 英語
 抄録 多世代の研究のための最新のガイドラインについて述べた。繁殖試験のためのガイドライン、一般的な推奨、用量範囲を発見する研究(実験動物の種、数、性、年齢、用量、期間、交配、胎子、世代、奇形、臨床的観察、子の発育、神経毒性、免疫毒性など)、離乳児および両親の剖検(組織および器官の固定、一般的な組織病理学、女性生殖器の組織病理学、男性生殖器の組織病理学)、女性生殖毒性のエンドポイント(女性生殖能指数、妊娠指数、生存率など)、男性生殖毒性のエンドポイント(精巣の精子数評価、精子の運動性、形態学、数のための評価)、データ分析、繁殖研究の結果報告、について解説した。

902_rs_0081

レコードNo 1999:410837 JSTPLUS
 整理No 99A0660403; C99323579
 和文標題 規制いき値に対する層状アプローチ
 原文標題 A Tiered Approach to Threshold of Regulation.
 著者名 CHEESEMAN M.A, MACHUGA E J, BAILEY A B, (Food and Drug Administration, Washington, D.C., USA)
 資料名 Food Chem Toxicol
 JST資料番号: B0937A; , ISSN: 0278-6915; , CODEN: FCTOD7
 VOL: 37 , NO: 4, PAGE: 387-412, (1999/04)
 発行国 United Kingdom (GB)
 言語 英語
 抄録 規制いき値の原理を発展させて構造-活性関係, 遺伝毒性, 短期毒性データを用いて, 0.5~1ppbの食事濃度を定める方法を示した。FDAの規制いき値をきめたデータベースを検証して, 化学構造パラメーターや短期毒性試験の結果から強い作用をもつかどうかを決めることの可能性を調べた。さらに生殖試験と連続投与毒性試験の結果を発がん性データベースと比較したところ, 発がん性という終了点は規制いき値を決めるには最も保守的(リスクを過剰に見積もる)な終了点といえる。補遺として化学構造別に TD50を記した表がある。

JST COPYRIGHT

902_rs_0082

レコードNo 1999:99565 TOXCENTER
 和文標題 食品医薬品局は発生毒性研究の試験ガイドラインを提案した
 原文標題 Food and Drug Administration proposed testing guidelines for developmental toxicity studies
 著者名 Collins, Thomas F. X. [Reprint author]; Sprando, Robert L.; Shackelford, Mary E.; Hansen, Deborah K.; Welsh, John J.
 資料名 Regulatory Toxicology and Pharmacology, (Aug., 1999) Vol. 30, No. 1, pp. 39-44. print.
 CODEN: RTOPDW. ISSN: 0273-2300.
 発行国
 言語 英語
 抄録 1982年、FDAは食品添加物の適正な毒性試験のガイドラインとして「食品に使用される直接食品添加剤及び着色剤の安全性評価のための毒性学的原理」を発行した。これは一般にレッドブックと言われている。レッドブックには、直接、間接食品添加剤の母親や胎児に対する影響をテストするための詳しいガイドラインが載っている。食品添加剤の代謝や薬物動力学に関する知識の拡大だけでなく、安全性とリスク評価の改善の点から、1982年版の見直しと改訂が必要になった。1993年にレッドブックIIが作られた。それ以来、試験の終点や発育目標が何回か修正されてきた。本稿では最近提唱されている発生毒性研究のガイドラインについて解説した。

902_rs_0083

レコードNo 1999384114 EMBASE
和文標題 ADI/TDI/PTWIの背景
原文標題 Background to the ADI/TDI/PTWI.
著者名 Herrman J.L.; Younes M.
資料名 Regulatory Toxicology and Pharmacology, (1999) 30/2 II (S109-S113). Refs: 15 ISSN: 0273-2300 CODEN: RTOPDW
発行国 United States
言語 英語
抄録 食品添加物や農薬を含む化学物質の安全性を表わす設定値に関して、ヒトの一日許容摂取量(ADI)がJECFA(FAO/WHOと食品添加物専門者会議の合同委員会)およびJMPR(FAO/WHOと残留農薬専門者会議の合同委員会)やヨーロッパでの委員会で案出され、その後のADI、一日耐容摂取量(TDI)およびPTWIの設定について、背景とその設定経緯を概説した。

902_rs_0084

レコードNo 2000:12630 TOXCENTER
和文標題 長期間の食品摂取の極値量評価
原文標題 Assessment of extreme levels of chronic food intakes
著者名 Chambolle M
資料名 Regulatory toxicology and pharmacology : RTP, (1999 Oct) 30 (2 Pt 2) S13-8. Journal Code: 8214983. ISSN: 0273-2300.
発行国 United States
言語 英語
抄録 フランスの食品消費観測機関(OCA)によって集められたデータをもとに食品消費について研究した。過剰に消費する消費者の定義、平均摂取から過剰摂取の評価、過剰消費者の特徴、過剰消費者のための予測の研究について検討した。食品添加剤などの一日許容摂取量(ADI)を越えることの重大性は慢性毒性の定義と関連して論議されなければならない。OCAのデータから高レベルの摂取を決定するカットオフ点の選択について討議した。過剰消費者の年齢、性、地域、収入などの特性はグループを限定したり、更なる研究に役立つ。

902_rs_0085

レコードNo 2000:12629 TOXCENTER
和文標題 ADIを超える摂食逸脱の有意性検討報告
原文標題 Report of workshop on the significance of excursions of intake above the ADI
著者名 Larsen J C; Richold M
資料名 Regulatory toxicology and pharmacology : RTP, (1999 Oct) 30 (2 Pt 2) S2-12. Journal Code: 8214983. ISSN: 0273-2300.
発行国 United States
言語 英語
抄録 一日許容摂取量(ADI)がJECFA (FAO/WHOと食品添加物専門者会議の合同委員会)案出されて以来、その後の一日耐容摂取量(TDI)、PTWIの設定について、その経緯を概説した。次に、表題のADIを超える摂食逸脱の有意性の検討会議に加えて、NOAEL/LOAELの設定等に関する各委員のコメントにも触れた。

902_rs_0086

レコードNo 2000:12638 TOXCENTER
和文標題 毒性薬物動力学及び毒性薬理学との関係におけるADI/TDIを超える摂食の持続期間
原文標題 Duration of intake above the ADI/TDI in relation to toxicodynamics and toxicokinetics
著者名 Renwick A G
資料名 Regulatory toxicology and pharmacology : RTP, (1999 Oct) 30 (2 Pt 2) S69-78. Ref: 20. Journal Code: 8214983. ISSN: 0273-2300.
発行国 United States
言語 英語
抄録 試験体への適要毒性の蓄積・負荷に関して、毒性薬物動力学及び毒性薬理学との関係からADI/TDIを超える摂食について、時間的影響を検討した。定常状態での、一時期にADIの二倍量を与えた場合の負荷は顕著に増加した。また、初めの添加量(ADIの希釈量)を変え、追添量をADIの数倍量を添加した場合の毒性の蓄積・負荷量についても調べた。また、ADI/TDI/Rfd等安全性を示す数値に関して関係を説明した。

902_rs_0087

レコードNo 1999384111 EMBASE
和文標題 ADIを超える摂食逸脱の有意差: 発生毒性における時間と供与量の影響
原文標題 Significance of excursions of intake above the acceptable daily intake: Effect of time and dose in developmental toxicology.
著者名 Sullivan F.M.
資料名 Regulatory Toxicology and Pharmacology, (1999) 30/2 II (S94-S98). Refs: 15 ISSN: 0273-2300 CODEN: RTOPDW
発行国 United States
言語 英語
抄録 ADIを超える摂食で発生する毒性に関して、時間と供与量の影響を検討した。対象物の供与で起きる妊産状態に対する発生毒性、血しょうレベルおよび高濃度投与の影響について調べた。母性毒性、催奇形性等について、時間的挙動を調べた。

902_rs_0088

レコードNo 2000299884 EMBASE
和文標題 毒性学におけるいき値-有用か無用か?
原文標題 Threshold values in toxicology - Useful or not?
著者名 Wennig R.
資料名 Forensic Science International, (9 Nov 2000) 113/1-3 (323-330). Refs: 17 ISSN: 0379-0738 CODEN: FSINDR
発行国 Ireland
言語 英語
抄録 毒性学におけるいき値の扱い方について解説した。毒性学の分野では一日許容摂取量等のいき値がよく使われるが、その使用には細心の注意が必要である。また、分析法の改良を何度も行おうことでヒトに対するリスクの過大評価をなくすこともできる。さらに、能力の高い毒性学者が分析結果を注意深く解釈することも重要である。薬物や特殊な例だけでなく、分析毒性学、リスク評価問題、剖検時の法医中毒での応用例から、いき値の利用や乱用について解説した。いき値を絶対的真理としてではなくガイドラインとして使えば、毒性学データ解釈に非常に役立つ。

902_rs_0089

レコードNo 2002:44918 TOXCENTER
 和文標題 DNA画像分析による細胞モデルを使った食品添加剤の毒性評価
 原文標題 Assessment of food additives toxicity using a cell model by means of DNA image analysis
 著者名 Stefanidou, M. [Reprint author]; Livaditou, A. [Reprint author]; Relaki, A. [Reprint author]; Aleviopoulos, G. [Reprint author]; Chatziioannou [Reprint author]; Koutselinis, A. [Reprint author]
 資料名 Toxicology Letters (Shannon), (September 1st, 2001) Vol. 123, No. Supplement 1, pp. 83. print. Meeting Info.: EUROTOX 2001 Istanbul, Turkey September 13-16, 2001 European Societies of Toxicology. CODEN: TOLED5. ISSN: 0378-4274.
 発行国
 言語 英語
 抄録 食品色素タルトラジン、防腐剤硝酸ナトリウムおよび安息香酸、抗酸化剤ブチルヒドロキシトルエン(BHT)の対原虫Tetrahymena pyriformisモデルの試験に、DNA画像分析による細胞モデルを使った。前記四点物質の実験使用で、DNAの増加を検知でき有効性を確認できた。

902_rs_0090

レコードNo 2001:178096 JMEDPLUS
 整理No 01A0990602
 和文標題 危険評価の新しい傾向(不確実性因子によるデータ及びダイオキシン類の日本の一日摂取耐量値の測定)
 原文標題 New trend in risk assessment (data based uncertainty factors and determination of Japanese TDI value for dioxins).
 著者名 OHNO Y, (NIHS)
 資料名 J Toxicol Sci
 JST資料番号:Z0265B; , ISSN:0388-1350
 VOL: 26 , NO: 4, PAGE:190, (2001/10)
 発行国 Japan (JP)
 言語 英語
 抄録 不確実性因子を伴う無毒性量NOAELにも関連している、食品添加物や化学物質の一日耐容摂取量(TDI)は設定機関および国によって異なる値がある。これらは、試験動物の結果から導くものであり、ヒトの平均体重の差、設定時の情勢背景等が不確実性因子の一つとして影響してくる。実例として、ダイオキシンの取り扱いについて、WHOと日本の厚生労働省および環境省が設定した値を比較し概説を加えた。ダイオキシンの一日耐容摂取量(TDI)は、1998年にWHOは10~1-4pg/kg/dayを修正設定し、1999年に日本の労働厚生省と環境省の合同委員会は4pg/kg/dayを設定している。

902_rs_0091

レコードNo 2001:178152 JMEDPLUS
整理No 01A0990658
和文標題 マウス多臓器によるコメットアッセイを用いた合成食品色素の in vivo 遺伝毒性の評価
原文標題 Evaluation of in vivo genotoxicity of synthesized food colors by the comet assay with mouse multiple organs.
著者名 KAWAGUCHI S, SASAKI Y F, (Hachinohe Natl Col Techn, Hachinohe, JPN) TSUDA S, (Iwate Univ., Morioka, JPN)
資料名 J Toxicol Sci
JST資料番号: Z0265B; , ISSN: 0388-1350
VOL: 26 , NO: 4, PAGE: 233, (2001/10)
発行国 Japan (JP)
言語 英語
抄録 日本で食品添加用に許可された12合成タール系色素(アゾ系、キサンテン系、トリフェニルメタン系およびその他)について、CD-1マウスの遺伝毒性を検討した。アゾ系(アマランサス、アルラレッド、ニューコシン、タルトラジン)は胃、結腸等にDNA損傷を引き起こし、キサンテン系(エリスロシン、ホロキシシ、ローズベンガル)は胃、結腸等にDNA損傷を引き起こした。

902_rs_0092

レコードNo 2001279698 EMBASE
整理No 01A0885285
和文標題 食品中に存在する化学物質に対する毒物学的懸念のいき値
原文標題 Threshold of toxicological concern for chemical substances present in the diet.
著者名 Kleiner J.; Barlow S.M.; Kozianowski G.; Wurtzen G.; Schlatter J.
資料名 Food and Chemical Toxicology, (2001) 39/9 (893-905). Refs: 13 ISSN: 0278-6915 CODEN: FCTOD7
発行国 United Kingdom
言語 英語
抄録 ILSIヨーロッパの「毒物学的懸念のいき値」(TTC)に関して対策委員会が行ったワークショップの報告書をまとめた。TTCはそれ以下ではヒト健康に重大なリスクがないいき値である。1)TTCの概念へのアプローチ(米国FDAの規制いき値、化学構造クラスに関係したI/JECFAによる着色料の評価に用いたアプローチ)、2)鋭敏な終末点へのTTCの応用(免疫毒性、発達毒性、神経毒性と発達神経毒性、内分泌活性物質、アレルギー性、専門家グループの作業のまとめ)、3)総合ならびにパネルディスカッション(Iの定義、1日1人当たり1.5 μgのTTCを支持する科学的根拠)。

JST COPYRIGHT

902_rs_0093

レコードNo 2002:454044 JSTPLUS
 整理No 02A0766493
 和文標題 各種臓器における二段階発がんモデルの応用
 原文標題
 著者名 今井俊夫, (医薬品食品衛研)
 資料名 日本獣医学会学術集会講演要旨集
 JST資料番号: Z0670A; , ISSN: 1347-8621
 VOL: 134th; , PAGE: 105, (2002/08/20)
 発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 化学発がん物質(イニシエーター)によるイニシエーションと、その後のプロモーション期に被験物質を投与し、前がん病変および腫瘍発現性を見る二段階発がんモデルの応用について概説した。二段階発がんモデルは腫瘍の他、肝臓のGST-P陽性細胞巢、大腸のACFのような前がん病変の分析として用いられている。臓器として皮膚、肝臓、腎臓、消化器や乳腺、甲状腺等の単一系、多臓器系が利用されてきており、食品添加物やホルモン関連物質の発がん性評価、サルファ剤による甲状腺発がん性解析に使用していることに触れた。

902_rs_0094

レコードNo 2002:88043 JSTPLUS
 整理No 02A0306692
 和文標題 in vitro毒性試験法 技術的および科学的進歩による規制への影響
 原文標題 In vitro toxicology methods: impact on regulation from technical and scientific advancements.
 著者名 CARERE A, STAMMATI A, (Inst. Superiore di Sanita, Rome, ITA) ZUCCO F, (Neurobiology and Molecular Medicine Inst., Rome, ITA)
 資料名 Toxicol Lett
 JST資料番号: E0034B; , ISSN: 0378-4274; , CODEN: TOLED5
 VOL: 127, NO: 1/3, PAGE: 153-160, (2002/02/28)
 発行国 Netherlands (NL)
 言語 英語
 抄録 毒性学分野における in vitro試験法の基礎となる、諸実験技術および科学的進歩、ならびにそれらの試験法と法規制との関係についてレビューした。毒性学は基礎科学の他に、法規制および企業利益との接点を持っている。ゲノム基盤技術、細胞工学、遺伝毒性学、各種培養技術等の発展により、新しい試験法が開発・確立され、その有効性が確認されると、規制に受け入れられる。これまで受け入れられた in vitroの毒性試験法は光毒性に関するものなど少数で、他の多くが評価段階である。本稿では、最近改訂された食品添加物に対する EU指針に留意しながら、最新の試験戦略と手法を紹介した。評価された新技術の実施には、国および国際レベルでの各種法規制間の協調が必要である。

JST COPYRIGHT

902_rs_0095

レコードNo 2002:665614 TOXCENTER
和文標題 フレーバの発がん性いき値
原文標題 Thresholds of carcinogenicity of flavors
著者名 Waddell William J
資料名 Toxicological sciences : an official journal of the Society of Toxicology, (2002 Aug) 68 (2) 275-9. Ref: 15. Journal Code: 9805461. ISSN: 1096-6080.
発行国 United States
言語 英語
抄録 過去のフレーバ化学物質の食品添加での影響試験(発がん性試験:主にげっ歯類を対象とした動物実験)の結果(ベンジル酢酸、アントラニル酸シンナミル、エストラゴールおよびエチルアクリル酸)とメチルオイゲノールの結果を比較した。また、FEMA (Flavor & Extract Manufacturers Asso.)がGRAS(Generally Recognized As Safe)等級に認定した品目の結果についても触れた。

902_rs_0096

レコードNo 2002:C0655 FSTA
整理No 02A0342080
和文標題 食品食物中の化学物質のリスクアセスメントへの疫学の寄与
原文標題 The contribution of epidemiology to risk assessment of chemicals in food and diet.
著者名 Brandt, P. van den; Voorrips, L.; Hertz-Picciotto, I.; Shuker, D.; Boeing, H.; Speijers, G.; Guittard, C.; Kleiner, J.; Knowles, M.; Wolk, A.; Goldbohm, A.
資料名 Food and Chemical Toxicology, (2002), 40 (2/3) 387-424, many ref. ISSN: 0278-6915
発行国
言語 英語
抄録 プロジェクト"ヨーロッパ食品安全性(FOSIE):食品食物中化学物質リスクアセスメント"の一環として、標記のテーマにつき検討した結果をまとめた。疫学的アプローチを紹介し、毒物学および疫学的リスクアセスメントの違いを論じ、リスクアセスメント過程において疫学が寄与する領域を述べ、疫学はハザードの特定および特性化や曝露評価に役立ち得ると結論している。

JST COPYRIGHT

902_rs_0097

レコードNo 2002:655892 TOXCENTER
和文標題 変異原性試験で何がわかるか: 21世紀の展望
原文標題 The past, present and future of genotoxicity assays
著者名 Nohmi, Takehiko
資料名 Kankyo Hen'igen Kenkyu, (2002) Vol. 24, No. 2, pp. 75-80. CODEN: KHKEEN. ISSN: 0910-0865.
発行国 JAPAN
言語 日本語
抄録 環境変異原研究の流れを「試験法」の観点から振り返り、今後のあり方について展望した。環境中の変異原の影響毒性を動物実験結果から、普遍的ルール(原則、教訓、原理)を見出し、如何に、ヒトへの評価に繋げるかが重要であることを説いた。新規試験法として、遺伝毒性試験のハイ・スループット化(各種薬物代謝酵素遺伝子の導入株、DNA修復酵素遺伝子破壊株等)、種々トランスジェニック動物の利用について概説し、今後の研究への期待について説明した。

902_rs_0098

レコードNo 2002:135326 TOXCENTER
和文標題 食品毒性学のための電子的情報資源
原文標題 Electronic information resources for food toxicology
著者名 Winter, Carl K. [Reprint author]
資料名 Toxicology, (April 25th, 2002) Vol. 173, No. 1-2, pp. 89-96. print. CODEN: TXCYAC. ISSN: 0300-483X.
発行国
言語 英語
抄録 インターネット情報源の食品毒性学のための有効性について概説した。農薬、食品添加剤、天然毒素、環境的汚染物質等の毒性情報がインターネット情報から得られる。インターネット利用は政府部門関係、工業部門関係、学術部門関係および消費者部門関係で有効である。

902_rs_0099

レコードNo 2002:328968 JSTPLUS
整理No 02A0583760
和文標題 IFT Scientific Status Summary 4 食物アレルギーとその他の食物過敏 (4) 食品 安全と栄養
IFT専門家パネルによる見解
原文標題
著者名 TAYLOR S L, HEFLE S L, (IFT)
資料名 月刊フードケミカル
JST資料番号:X0600A; , ISSN:0911-2286
VOL: 18 , NO: 6, PAGE:90-92, (2002/06/01)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 特定の食物又は成分と特異体質反応との因果関係の DBPCFC試験 (二重盲検 -プラセボ比較食品負荷試験)による確認とその試験法で否定された数種食物又は成分の特異体質性発症への関与 (人工食用色素による子供の情緒不定,MSG合併症等)を説明し,永年食品添加物として使われてきた亜硫酸塩によるぜん息患者に対するぜん息の誘発について述べた。

JST COPYRIGHT

902_rs_0100

レコードNo 2002293646 EMBASE
和文標題 規制試験に使用される実験動物のためのヒトのエンドポイント
原文標題 Humane endpoints for laboratory animals used in regulatory testing.
著者名 Stokes W.S.
資料名 ILAR Journal, (2002) 43/SUPPL. (S31-S38). Refs: 64 ISSN: 1084-2020 CODEN: IJLOAC
発行国 United States
言語 英語
抄録 規制の試験に用いられる動物に対する現在のヒトエンドポイントおよびヒトエンドポイントを確立するためのプロセスについて述べた。安全性試験に対する現在のヒトエンドポイント、ヒトエンドポイントとしての瀕死の状態、明確に定義したヒトエンドポイントの確立、痛みと困難の認知と評価、ヒトエンドポイントのための一般的LACUC考察、急性および慢性毒性試験に対するヒトエンドポイント、ワクチン力価試験のためのヒトエンドポイント、ヒトエンドポイントの発展と評価および遂行、ネズミ局所リンパ節試験:機械的ヒトエンドポイントの例、規制試験およびヒトエンドポイントに対する新しい技術の影響、について解説した。

902_rs_0101

レコードNo 2003:90548 TOXCENTER
和文標題 細胞モデルを使った食品添加剤毒性評価における問題点
原文標題 Controversies in toxicology assessing food additive toxicity using a cell model
著者名 Stefanidou, M.; Alevisopoulos, G.; Chatziioannou, A.; Koutselinis, A.
資料名 Veterinary and Human Toxicology, (2003) Vol. 45, No. 2, pp. 103-105. CODEN: VHTODE. ISSN: 0145-6296.
発行国 GREECE
言語 英語
抄録 食品添加剤は技術的目的材料および実際の食事・材料に使われている。そして、またヒトにおいて毒性的働きも持つ。毒性学的モデルとして、食品色素のタルタジン、保存剤硝酸ナトリウムおよび安息香酸ナトリウム、抗酸化剤BHTの原虫Tetrahymena pyriformisを用いる実験を紹介した。前記四物質を原虫T. pyriformisの培養に添加し、画像分析で原虫の核のDNA含量を測定した。有糸分裂過程でDNA含量の顕著な増加を確認した。この実験はがん発生(細胞レベル)を示唆できる。

902_rs_0102

レコードNo 2004:148956 TOXCENTER
和文標題 化学物質安全性を決定するためのリスク評価の原則
原文標題 Principles of risk assessment for determining the safety of chemicals.
著者名 Hasegawa R
資料名 Congenit Anom Kyoto, (2003 Sep) 43 (3) 225-6. ISSN: 0914-3505.
発行国
言語 英語
抄録 Philippus Aureolus(Theophrastus Bombastus)の名言「すべての物質は毒物であり、無毒な物は存在しない。」から、あらためて振り返り今日の標記主題について概説した。一日許容摂取量(ADI)、一日耐容摂取量(TDI)、無毒性量(NOEL)等の数値設定について触れた。

902_rs_0103

レコードNo 2004:4779 JSTPLUS
 整理No 04A0005437
 和文標題 霊長類による発がん研究
 原文標題
 著者名 高山昭三
 資料名 モダンメディア
 JST資料番号:X0166A; , ISSN:0026-8054
 VOL: 49 , NO: 10, PAGE:290-294, (2003/10/10)

発行国 Japan (JP)
 言語 日本語
 抄録 アメリカ国立がん研究所 (NCI)は、1961年から食品添加物、医薬品、環境化学物質などを30年にわたりサルに長期間投与し、サルの発がん実験を行い、その一部について紹介した。サルは人間と系統発生上近い動物種であり、薬物代謝の過程もヒトと似ており、自然発生腫瘍は少ないなど実験としての利点がある。NCIでは霊長類の実験にガイドラインがあり、これを順法することが義務づけられ、また動物愛護団体からの要望事項を厳守するなど要求されている。実験サルの系統として、自然発生腫瘍の少ないカニクイサルが主で、他にアフリカミドリザル、アカゲザルがある。げっ歯類で発がん性を認めた25種の化学物質中、サルでは11種類が発がん性を示したのみであった。

JST COPYRIGHT

902_rs_0104

レコードNo 2004:83347 TOXCENTER
 整理No 04A0059817
 和文標題 食品の安全性 リスクアセスメントの方法論と意思決定基準
 原文標題 Food safety: Risk assessment methodology and decision-making criteria
 著者名 Brock, William J. [Reprint Author]; Rodricks, Joseph V.; Rulis, Alan; Dellarco, Vicki L.; Gray, George M.; Lane, Richard W.
 資料名 International Journal of Toxicology, (November-December 2003) Vol. 22, No. 6, pp. 435-451. print. ISSN: 1091-5818.

発行国
 言語 英語
 抄録 2002年11月に開催した標題のシンポジウムで講演した次の4演題、1)食品に関連した健康リスクと利益の評価と管理:将来のために必要な科学及び制度、2)食品成分の安全性評価、3)普遍的な毒性メカニズムを共有する殺虫剤について蓄積したリスクアセスメント、4)アメリカEPAの殺虫剤担当部門とWHOの殺虫剤1日許容摂取量との比較の内容を紹介し、総合的にコメントした。まず科学の進歩とともにリスクアセスメントの手段は多様化し、世界の地域、食品に混入する殺虫剤や他の成分、バイオ技術による食品などの特性に応じた試験が必要であると述べた。次に、FDAは食品の安全性を保証し、承認する上でのより科学的な手段を迫り続けていると評価した。最後に発がん性を根拠にした食品成分の許容量についてアメリカはヨーロッパより厳格であり、関係当局による承認基準の調和が必要であると論じた。

JST COPYRIGHT

902_rs_0105

レコードNo 2004:417176 JSTPLUS
整理No 04A0493181
和文標題 リスクアセスメントの現状と展望 :食品添加物の立場から -遺伝毒性発がん物質であるコウジ酸を例に -
原文標題
著者名 長尾美奈子, (共立薬大)
資料名 日本環境変異原学会大会プログラム・要旨集
JST資料番号:L1835A; , ISSN:0910-0865
VOL: 32nd; , PAGE:69, (2003/10/31)
発行国 Japan (JP)
言語 日本語
抄録 食品規制での遺伝毒性の検出の重要性を認め、コウジ酸の発がん性試験の結果(細菌での突然変異誘発、ヒト細胞でのDNA切断、TK変異および小核の誘発等)を示した。コウジ酸の遺伝毒性のin vitroおよびin vivo実験の継続を進める一方、発酵食品中で認められるコウジ酸を例にして、遺伝毒性発がん物質全てを、食品添加物としての使用を禁止する必然性について疑問を投げかけた。

902_rs_0106

レコードNo 2004:45823 TOXCENTER
和文標題 食品と化学的感受性のための試験アプローチ
原文標題 Approaches to testing for food and chemical sensitivities
著者名 Gordon Bruce R
資料名 Otolaryngologic clinics of North America, (2003 Oct) 36 (5) 917-40. Ref: 105. Journal Code: 0144042. ISSN: 0030-6665.
発行国 United States
言語 英語
抄録 標題について問題を整理し概説した。食品と化学物質の感受性試験において患者の臨床的検査が重要であることを強調した。食品アレルギーおよび化学感受性(過敏症)の両方共に二つのタイプがある。前者は速成的、アナフィラキシー的タイプと遅行的、慢性的タイプで、後者についてはアレルギー型と毒性型である。試験方法として免疫グロブリンやヒスタミン放出度を見る方法がある。試験法についても説明した。

902_rs_0107

レコードNo 2004163482 EMBASE
 和文標題 植物性食品サプリメントのリスク評価のための基準
 原文標題 Criteria for risk assessment of botanical food supplements.
 著者名 Walker R.
 資料名 Toxicology Letters, (1 Apr 2004) 149/1-3 (187-195). Refs: 9 ISSN: 0378-4274 CODEN: TOLED5
 発行国 Ireland
 言語 英語
 抄録 植物性食品サプリメントの安全性評価について解説した。製品についての明細事項(植物源、生育条件、加工方法など)、使用の歴史、伝統食品/製品との比較、予測される暴露、危害同定/特性化、リスク特性化/安全性評価、ガイドライン: デイジションツリーアプローチ、について述べた。一般的に、ハーブや複雑な抽出物のために単活性成分を基にしたリスク評価を作成することはできない。植物性食品サプリメントの安全性を確立するための試験の簡単なチェックリストを得るのは難しい。デイジションツリーが安全性評価プロセスにアプローチする一助となることを示唆した。

902_rs_0108

レコードNo 2004:164133 TOXCENTER
 和文標題 着香料の安全性評価のためにJECFAによって用いられる毒物学データベースおよび毒物学関連のいき値の概念
 原文標題 Toxicology databases and the concept of thresholds of toxicological concern as used by the JECFA for the safety evaluation of flavouring agents
 著者名 Renwick, A. G. [Reprint Author]
 資料名 Toxicology Letters (Shannon), (April 1 2004) Vol. 149, No. 1-3, pp. 223-234. print. CODEN: TOLED5. ISSN: 0378-4274.
 発行国
 言語 英語
 抄録 1996年以来、食品添加剤に関するFAO/WHO合同専門委員会(JECFA)は、1259の着香料の安全性について一連の毒物学関連のいき値を組み込んだデイジションツリーを基に評価を行った。安全性は代謝の予測される結果および概算される摂取が化合物の毒物学関連のいき値を超えるか越えないかによって結論付けた。着香料の安全性評価のためのJECFAデイジションツリー(化合物の3構造クラスへのクラス分け、代謝の考察、摂取の概算、一連の毒物学関連のいき値と摂取の比較)、着香料の安全性評価のための手順を用いたJECFAにより到達した結論、について解説した。